



ユニチカCSR レポート

2010

**UNITIKA Group**  
Corporate Social Responsibility  
Report 2010

**UNITIKA**  
We Realize It!



# C O N T E N T S

- トップメッセージ ..... 2
- 時代の刻印 ユニチカ120年の軌跡 ..... 3
- ユニチカの活動フィールド ..... 4
- 2010 ユニチカマスコットガール ERICAの活動報告 ..... 5

**マネジメント**

- 編集方針 ..... 7
- 会社概要 ..... 8
- 経営理念 ..... 9
- コーポレートガバナンス ..... 9
- 内部統制 ..... 10
- CSR推進体制 ..... 11
- 環境管理・安全衛生管理 ..... 11
- 情報セキュリティ管理 ..... 11
- コンプライアンス推進のために ..... 12

**社会性報告**

- お客さまとのかかわり ..... 13
  - 安全な製品を提供するために ..... 13
  - 品質保証活動 ..... 13
- 株主と投資家の皆様とのかかわり ..... 14
  - IR活動の状況 ..... 14
  - 株式の状況 ..... 14
- 地域社会とのかかわり ..... 15
  - 社会貢献に対する取り組み ..... 15
  - 防災活動への取り組み ..... 16
- 従業員とのかかわり ..... 17
  - 人事制度 ..... 17
  - 均等な機会の提供 ..... 17
  - 人材育成 ..... 18
  - メンタルヘルスの取り組み ..... 18
  - 人権推進の取り組み ..... 18
  - 安全衛生に対する取り組み ..... 19
  - 石綿関連の現状と対応 ..... 19

**環境報告**

- 環境基本方針 ..... 20
- 環境保全活動の経過 ..... 21
- 環境中期計画 ..... 22
- 大気と水質への環境負荷低減 ..... 23
- 化学物質管理への取り組み ..... 24
- 物流にかかわる環境負荷の低減 ..... 24
- 環境に関する苦情 ..... 24
- 環境負荷の全体像 ..... 25
- 環境会計 ..... 26
- 環境保全のための技術と製品 ..... 27
  - 水処理関連 ..... 27
  - 大気汚染防止関連など ..... 27
  - 植物由来のバイオマス素材/テラマック ..... 28
  - 侵食防止シート/セグローバ ..... 29
  - 植物由来のバイオマス素材/キャストロン ..... 29
  - ガラスビーズ/ロードマーキング用ユニビーズ ..... 29
  - 再生ポリエステル/ユニエコロ・エコミックス ..... 30
  - 新天然繊維/シルフ ..... 31
  - オーガニックコットン使用素材/ネイチャーコット ..... 31
  - エコラリー ..... 31
- 事業所情報 ..... 32

**ユニチカCSR レポート**  
**2010** UNITIKA Group  
 Corporate Social Responsibility  
 Report 2010

## 「法令遵守」から「地球環境対応」まで

～社会から信頼される企業であり続けるためのCSR活動の推進に向けて～



ユニチカ株式会社  
代表取締役社長

安江 健治

ユニチカグループは、将来にわたり持続的に成長する企業を目指し、企業価値の維持・向上のための様々な活動に取り組んでおります。これらの基本は、事業の育成・強化と、著しい経営環境の変化に適応し得る事業体質を構築することにあります。一方でこれら事業に係る活動において企業の社会的責任を強く意識し、ステークホルダーの皆様方との信頼関係の構築を図ることも企業価値の向上のためには必要不可欠であると認識しております。このような考え方にに基づき、当社グループは従来から、企業の社会的責任、社会への貢献を念頭に置いた様々な活動を推進しており、中でも「環境対応」「コンプライアンス」「内部統制」「安全管理」「リスクマネジメント」については重点的に取り組むべき基本活動として認識し、2008年7月にあらためて設置した「CSR室」を中心として、担当役員、専任担当者による推進体制の下、積極的に取り組んでおります。

当社グループのCSR活動の中核的な位置づけとなるのは、「環境対応」に係る活動で、いまや地球環境問題は、枯渇するエネルギーの問題とともに一体的に考えていく必要のある全世界共通の重要テーマであります。特に地球温暖化に対する温室効果ガス削減へ向けた動きや、新興国を中心とした資源需要の増大に対応するためのエネルギー転換、資源循環社会の構築などの動きに関しては、足下の経済停滞への対応という観点も相まって、各国レベルで具体的な取り組みが進められております。また、このようなグローバル社会の動きの中で、個別企業が果たすべき社会的責任も更に重要性を増しており、当社グループとしましては「暮らしと技術を結ぶことによって社会に貢献する」という経営理念に基づき、グループ事業活動との調和を図りながら、様々な取り組みを進めております。

具体的には、環境負荷低減やリサイクルをテーマとした樹脂開発や水処理技術の展開、植物由来のポリ乳酸を原料としたバイオマスプラスチック「テラマック」の素材提供、環境保全のための大気、水質、土壌などの調査・分析、環境アセスメントなどがその一例であります。また、環境マネジメントシステムの国際規格である「ISO14001」の認証取得を当社グループ規模で推進し、主要な当社工場並びにグループ会社において認証を取得するとともに、主力工場のユーティリティについては、重油から天然ガスへの燃料転換を継続的に進めており、事業としての活動、事業運営上の活動の両面から環境重視の姿勢を具体化しております。

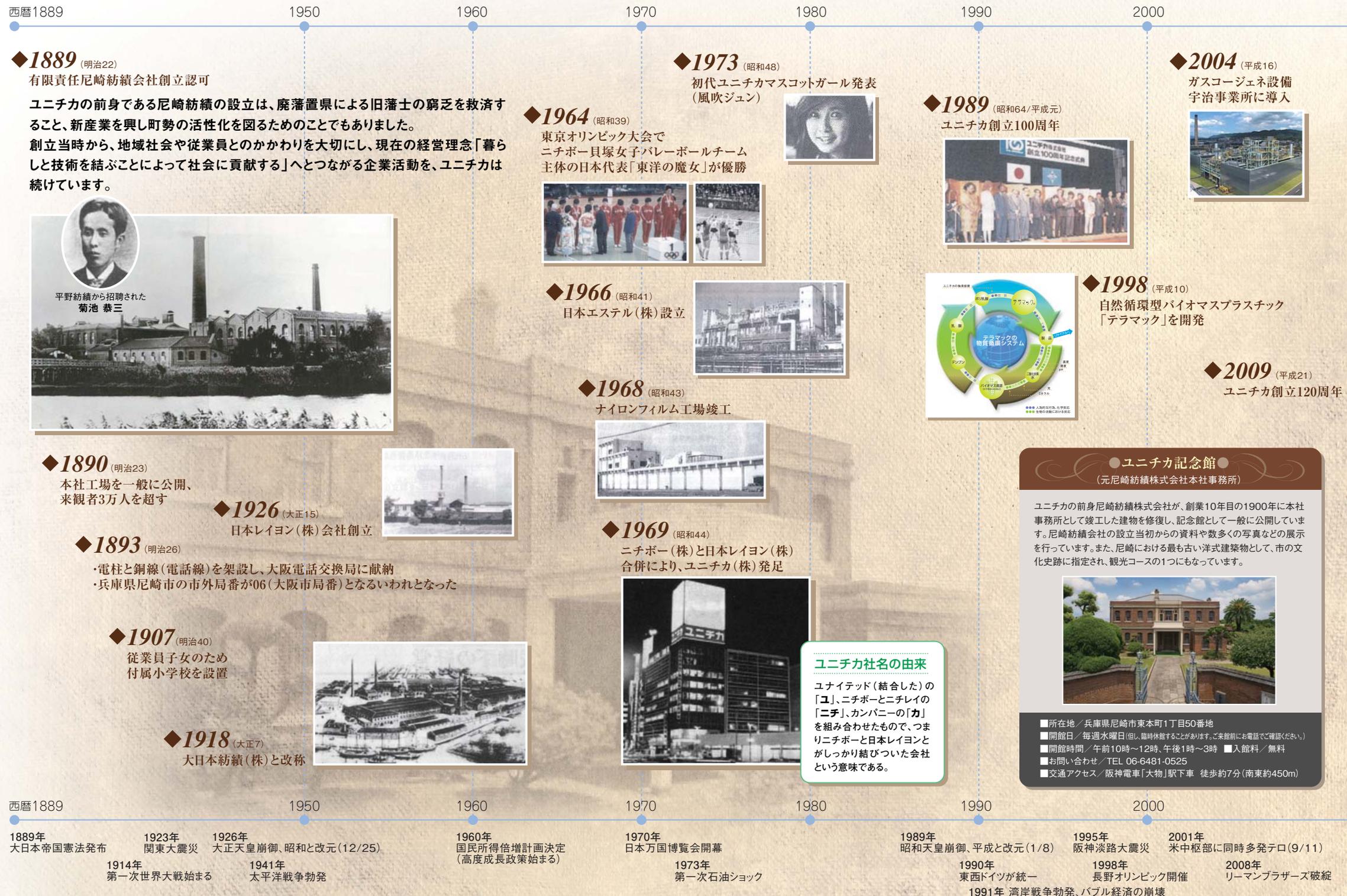
一方で、企業として当然の責務であります「コンプライアンス」に関しましても、グループ役員、従業員一人ひとりが法令遵守の姿勢を常に意識し業務活動にあたるよう徹底しております。具体的には「ユニチカ行動憲章」を定め、それに基づき「行動基準」を制定し、様々な機会を通じてグループ内に周知徹底をするとともに、社内コンプライアンス委員会による状況把握、組織啓蒙に努めております。当社グループは、今後もこのような活動を通じて、明治22年創業以来の長い歴史の中で築いてまいりました社外の皆様からの信頼を決して損ねることのないよう行動してまいりたいと考えております。

この他、企業が法的、標準的に求められる「内部統制」システムの整備・運営の徹底、お客さまにご提供する製品の品質管理や工場運営など社内外の様々な場面における「安全管理」レベルの向上を目指した取り組み、また不測の事態に際しても企業の信頼性が損なわれることのないような、リスク管理体制の整備といった各種CSR活動について総合的、体系的な取り組みを進めております。

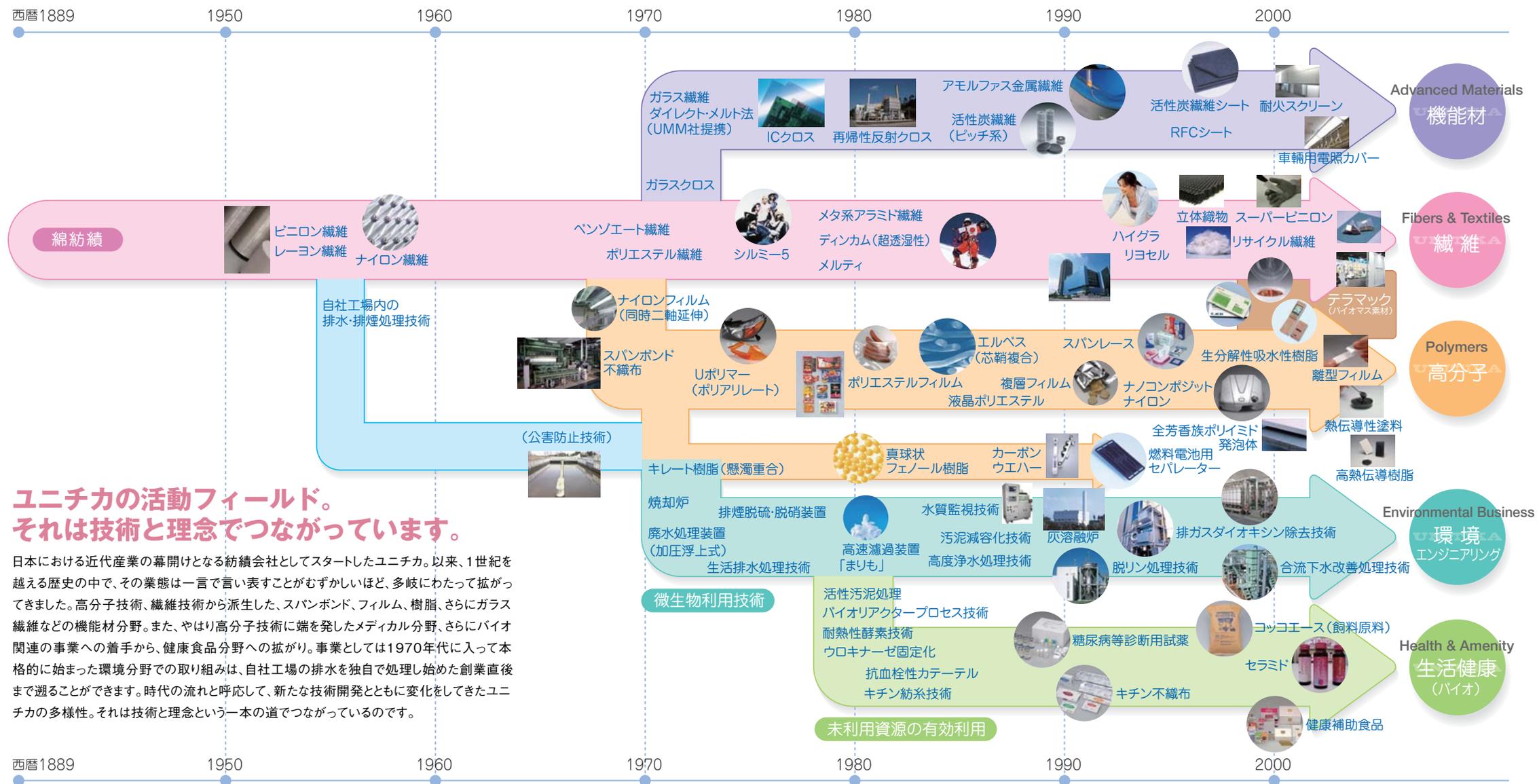
当社グループは、2009年4月より新たな中期経営三ヵ年計画「改革'11」を推進しており、その中におきまして、環境配慮型ビジネスとして、「テラマック」事業、環境資材事業、リサイクル関連事業の育成強化を図るなど、経営ビジョンに掲げる「人々の生活と環境に貢献し、社会的存在感のある企業」をめざしております。今後はこれら取り組みを通じて、計画目標を達成していくことはもとより、社会の一員である企業として求められるCSRの精神に基づき、「法令遵守」といった平素の企業活動の中できめ細かに対処すべき事項から、「地球環境対応」など大局的な課題へ向けた取り組みに至るまで、グループ全体としての行動目標を一にして、社会から信頼される企業をめざしてまいりたいと存じます。

本レポートが、社会の一員として当社グループが取り組むCSR活動の状況について、ご理解いただく一助となることを願っております。

## 時代の刻印 ユニチカ120年の軌跡



# ユニチカの活動フィールド



## ユニチカの活動フィールド。それは技術と理念でつながっています。

日本における近代産業の幕開けとなる紡績会社としてスタートしたユニチカ。以来、1世紀を越える歴史の中で、その業態は一言で言い表すことがむずかしいほど、多岐にわたって広がってきました。高分子技術、繊維技術から派生した、スパンボンド、フィルム、樹脂、さらにガラス繊維などの機能材分野。また、やはり高分子技術に端を発した医療分野、さらにバイオ関連の事業への着手から、健康食品分野への拡がり。事業としては1970年代に入って本格的に始まった環境分野での取り組みは、自社工場の排水を独自で処理し始めた創業直後まで遡ることができます。時代の流れと呼応して、新たな技術開発とともに変化をしてきたユニチカの多様性。それは技術と理念という一本の道でつながっているのです。

西暦1889	1950	1960	1970	1980	1990	2000
1889年 「有限責任 尼崎紡績会社」設立 1894年 中畑綿糸「尼崎42番手燃糸」 1918年 「(株)摂津紡績」と合併 「大日本紡績(株)」と改称 1923年 「日本絹毛紡績」と合併 1926年 「日本レイヨン(株)」設立 1929年 本店新社屋竣工 1939年 宇治工場内「総合研究所」 (現中央研究所)設置	1951年 ビニロン商標第1号「ミュロン」 1955年 ナイロン商標第1号「グロン」	1960年 ナイロン・タイヤコード 1964年 「ニチボー(株)」と改称 1966年 「日本エステル(株)」設立 1968年 ナイロン同時二軸延伸 フィルム「エンブレム」 1969年 「日本レイヨン(株)」と合併 「ユニチカ(株)」と改称	1972年 スパンボンド農業資材「ラブシート」 1976年 「ユニチカテキスタイル(株)」設立 複重層糸「バルバー」 「ユニチカ化成(株)」 「ユニチカレーヨン(株)」設立 シルキー素材「シルミー-5」 1979年 中国内モンゴカシミアプラント 輸出契約締結	1981年 低融点ポリエステル「メルティ」 1982年 「ユニチカテキスタイル(株)」合併 1984年 「ユニチカウール(株)」設立 超透湿防水素材「ディンカム」 1986年 「(株)ユニチカリサーチャラボ」 「ユニチカガーメントック(株)」設立 多重多型混成糸「ミキシィ」 熱硬化性樹脂「ユニベックス」 「ユニチカ情報システム(株)」 1987年 「ユニチカ設備技術(株)」設立 太・細番手高級綿素材「ハミコット」 1988年 蓄熱保温素材「ソーラーα」 創傷被覆保護材「ベスキッチンW」	1988年 「(株)アドール」設立 1991年 セーム調織物「ミューフエス」 超高耐水圧・高透湿素材 「ブルーフェース」 コットンバンレース不織布 「コットンエース」 1994年 「東吳カシミア製品有限公司」設立 1995年 「エンブレム・アジア」設立 二成分系多機能素材「Z-10」 1997年 スパンボンド製販会社「タスコ」設立 溶剤紡糸セルロース繊維「リヨセル」 1999年 「ユニチカテキスタイル(株)」 「ユニチカファイバー(株)」設立	2000年 飼料原料「ココエース」 2002年 「ユニチカ上海事務所」開設 2003年 ハナビラタケ健康補助食品「白幻鳳凰」 2004年 「エンブレム・チャイナ」設立 ガスコージェネ設備をユニチカ宇治事業所に導入 2005年 美容・目的別健康補助食品「サプリードシリーズ」 2006年 ガスコージェネ設備をユニチカ岡崎事業所に導入 2009年 宇治事業所内に樹脂テクニカルセンターを設立



UNITIKA Group  
Corporate Social Responsibility  
Report 2010



## 2010 ユニチカ マスコットガール ERICAの活動報告

昨年の12月にデビューした、2010ユニチカマスコットガールERICA。  
展示会・イベントへの参加や事業所訪問など、その活動ぶりをご紹介します。

### エコプロダクツ展2009に参加!!

12月10日～12日に東京ビッグサイトでエコプロダクツ展2009が開催され、ユニチカマスコットガールERICAが応援に駆けつけました。来場者数は三日間で182,510人と、過去最多。出展4年目となる今年は“LIFE Friendly”をテーマに、初の試みであるCAFÉ形式のブース、ユニチカ・エコカフェを出展いたしました。

植物由来のバイオマス素材「テラマッ



ク」を使用したフィルム、不織布、樹脂などの様々な製品、その他「キャストロン」や「ユニエコロ」、寺田紡績の「再生樹脂」などを取り揃え、多岐にわたるユニチカグループの取り組みをPRしました。

ERICAはマスコットガールとしての初仕事ということもあり、少々緊張気味でのスタート。テラマック素材を使用した衣装を身にまとい、ユニチカの製品をPRすると共に、トークショーやじゃんけん大会と会場を大いに盛り上げました。

### フィッシングショー-OSAKA2010

2月5日(金)～7日(日)、インテックス大阪で開催されたフィッシングショー-OSAKA2010に出展。一般公開日の6、7日に、ゲスト参加しました。

ユニチカブースには、新製品のトラウト(マス釣り)専用ライン「シルバースレッド



アランチャ」など、ユニチカフィッシングラインがジャンルごとに展示され、プロスタッフのヒロ内藤氏、石川優美子氏、杉原正浩氏のセミナー、岡田勲氏のQ&Aコーナー、そしてユニチカエギング四天王(杉原正浩氏、弓削和夫氏、重見典宏氏、平松伸章氏)のトークショーと盛りだくさんの内容で、連日多くの来場者でにぎわいました。

ERICAは、各セミナーやトークショーへ参加しました。杉原氏のセミナーでは、杉

原氏指導のもとに初挑戦したエギング※の体験談で会場を盛り上げ、各セミナーやトークショー終了後には、サイン入りカレンダープレゼントのじゃんけん大会と大忙しでした。

※餌木(エギ)といわれる疑似餌を使用してアオリイカを釣る釣法

### ユニチカフィッシングラインをPR!!

釣り雑誌『アングリングファン』6月号のユニチカプロスタッフ・石川優美子さん(以下、石川プロ)の“石川道場”というコーナーにゲストとして登場し、ユニチカフィッシングラインをPRしました。

石川プロの指導の下、管理釣り場でのトラウト(マス釣り)に初挑戦しました。



場所は、静岡県でも有名な管理釣り場の“柿田川フィッシュストーリー”と“すそのフィッシングパーク”。アオリイカを釣るエギングに続いて、2度目の挑戦となったERICAは、ユニチカフィッシングラインを使用し今回も見事にマスを釣り上げ、その様子が4ページにわたって紹介されました。

ERICAがトラウトに挑戦する様子は、ウェブサイト「ユニチカフィッシングランド」と「2010ユニチカマスコットガール」で詳しくご紹介しています。

●「ユニチカフィッシングランド」URL  
<http://www.unitika.co.jp/fishing/>

●「2010ユニチカマスコットガール」URL  
<http://www.unitika.co.jp/mg/2010/>

### ユニチカ事業所を突撃訪問!!

ユニチカマスコットガールの使命として、忘れてはいけないのが社内を盛り立てること! ということで、ユニチカの事業所を突撃訪問し、社員との交流を楽しみました。

事業所訪問・第一弾は宇治事業所(京都府宇治市)です。まずはユニチカの事業の中で、安定して収益を上げているフィルム製造現場を突撃訪問しました。工場見学をするのは初めてというERICA。エアーシャワーを浴び、いざ出陣です! ユニチカ独自の2軸延伸フィルムの機械や、製造工程の説明に興味津々。つづいて、各部署を訪問し記念撮影やサイン会を行い、従業員との交流を楽しみました。その後の、宇治市長への表敬訪問は地元紙にも取り上げられ、宇治市においてもその注目ぶりうかがえました。



つづいて、事業所訪問・第二弾は、岡崎事業所(愛知県岡崎市)! ここでは不織布製造部を突撃訪問しました。まずは不織布の製造過程・製品説明について話を聞いた後、実際に製造現場に向かいました。ERICAは「普段使っているものばかり! ユニチカの製品は、実はこんなに身近に溢れているんですね!」と、ユニチカ製品についての知識を深めました。もちろん、社員との交流も楽しみ、岡崎事業所後にしました。

これまで二つの事業所を訪問してきたERICA。「製造現場の見学はすごく勉強になります! もっといろんなユニチカを知り、どんどんPRしていきたい!」とマスコットガールとしての使命感を募らせ、今後もERICAの事業所めぐりは続くのでした。



### ERICA エリカ プロフィール

- ◆名 前 ERICA(エリカ)
- ◆生 年 月 日 1990年3月19日
- ◆出 身 地 東京都
- ◆星 座 魚座
- ◆サ イ ズ 身長164cm
- ◆特 技 英会話
- ◆趣 味 バレーボール、バスケットボール
- ◆好きなコト ぬり絵  
段々色がついていくのが楽しくて
- ◆チャームポイント 長いまつ毛
- ◆血 液 型 O型
- ◆好きな季節 もちろん、夏です!  
寒がりな私は冬が苦手 夏ラブです
- ◆好きな女優 ニコール・キッドマン
- ◆好きな歌手 Ne-Yo(ニーヨ)
- ◆将来の夢 女優 ただ今、演技・ダンスのレッスン中



## 編集方針

### ■発行履歴

編集当初は「ユニチカ環境報告書」として、環境・社会活動についての報告をまとめてきました。その後企業の社会的責任(CSR)への注目度、重要度の高まりを受けて、2006年からその報告対象を拡大し、コーポレート・ガバナンスや内部統制などの理念や体制についての取り組みも合わせて毎年1回報告しています。

- 2002～2005 ユニチカ環境報告書
- 2006～ ユニチカCSRレポート

### ■報告対象期間

本報告書の対象期間は、2009年4月1日から2010年3月31日ですが、一部内容によっては2010年4月1日以降の報告もあります。

### ■参考にしたガイドライン

環境省の環境報告ガイドライン(2007年版)を参考にしました。

### ■本レポートの対象範囲

原則としてユニチカ株式会社の国内事業所及び海外を含むユニチカグループ会社を対象としています。なお、環境報告の対象範囲は次のとおりです。

国内事業所	事業所内グループ会社	国内グループ会社
宇治事業所	(株)アドール	(株)アイテックス
岡崎事業所	日本エステル(株)	大阪染工(株)
坂越事業所	ユーアイ電子(株)	ダイアボンド工業(株)
垂井事業所	ユニチカエヌピークロス(株)	寺田紡績(株)
豊橋事業所	(株)ユニチカ環境技術センター	(株)ユニオン
常盤事業所	ユニチカグラスファイバー(株)	ユニチカスパークライト(株)
貝塚事業所	ユニチカ設備技術(株)	ユニチカスピニング(株)
中央研究所	ユニチカテキスタイル(株)	ユニチカパークシャー(株)
	ユニチカファイバー(株)	
	ユニチカロジスティクス(株)	

### ■発行日

本報告書は2010年10月からユニチカ株式会社のホームページから閲覧できるようにしています。また、環境負荷を考慮して紙の冊子は発行していません。

### ■次回発行日

2011年10月予定

### ■CSRレポート中の用語について

- CSR : Corporate Social Responsibilityの略。企業の社会的責任。
- ステークホルダー : 顧客、株主、取引先、社会・地域、社員など企業に利害関係を持つ人や組織。
- コーポレートガバナンス : 企業統治。
- コンプライアンス : 法令や企業倫理の順守。

## 会社概要

- 会社名 ユニチカ株式会社
- 創立 1889(明治22)年6月19日
- 資本金 238億円(2010年3月31日現在)
- 大阪本社  
〒541-8566 大阪市中央区久太郎町四丁目1番3号
- 東京本社  
〒103-8321 東京都中央区日本橋室町三丁目4番4号
- 中央研究所  
〒611-0021 京都府宇治市宇治小桜23

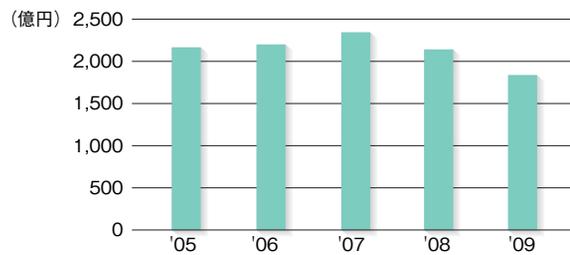
■従業員(連結) 5,037名(2010年3月31日現在)

■売上高(連結) 1,822億円(2009年度)

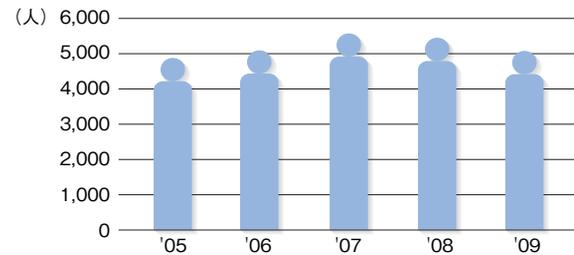
### ■主要製品(連結)

- 高分子事業(フィルム、樹脂、不織布)
  - 環境・機能材事業(エンジニアリング、薬剤、機能材)
  - 繊維事業(化合繊及び天然繊維の糸、綿、織編物)
  - 生活健康・その他事業
- (2010年3月31日現在)

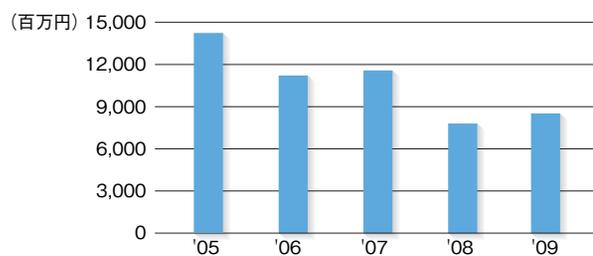
### ■売上高の推移(連結)



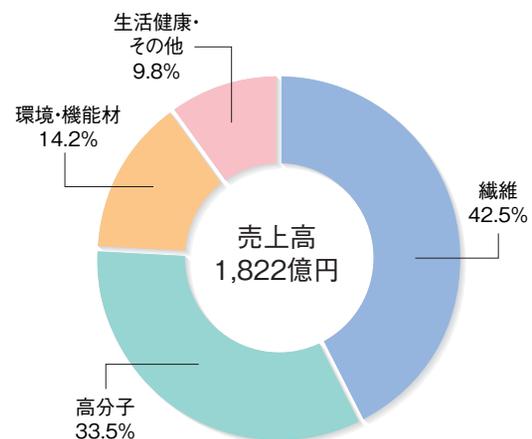
### ■従業員(連結)



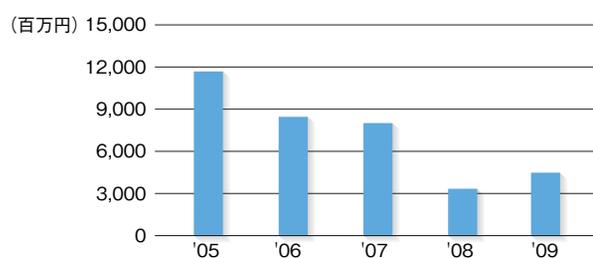
### ■営業利益の推移(連結)



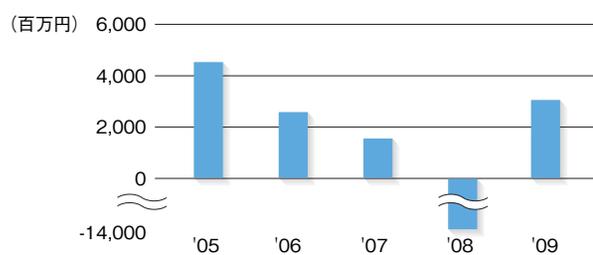
### ■事業別売上高構成比(2009年度連結)



### ■経常利益の推移(連結)



### ■当期純利益の推移(連結)



## 経営理念

### 「暮らしと技術を結ぶことによって社会に貢献する」

当社グループは、「暮らしと技術を結ぶことによって社会に貢献する」ことを経営の理念とし、経営ビジョンである「人々の生活と環境に貢献し、社会的存在感のある企業」を目指しています。

ユニチカグループスローガン

**UNITIKA**  
We Realize It!

たくさんの人々がいます。人の数だけ夢や願いがあります。  
そのすべてに、ユニチカグループはひとつの想いで応えていこうと考えています。  
ひとつの想い—それは人の暮らしの豊かさに貢献し、この地球環境と共に生きていくこと。  
私たちにはその想いを動かしていく、発想力があります。  
可能性という発想の芽を大きく育てる技術と活力があります。  
あるときは事業領域にかかわる各社が結束し、またあるときは多分野の能力を統合しフル稼働させる。  
私たちは、そうしたさまざまな動きを常に多元的に同時進行で展開させています。  
人々の毎日から生まれる想いを実現する力—We Realize It!—  
私たちはユニチカグループです。

## コーポレートガバナンス

「人々の生活と環境に貢献し、社会的存在感のある企業を目指す」  
この経営ビジョンのもと、ユニチカグループは、コーポレート・ガバナンスの  
継続的な取り組みを進めています。

### ■コーポレート・ガバナンスの基本方針

当社グループは、「暮らしと技術を結ぶことによって社会に貢献する」という経営理念により、社会的存在感のある企業を目指し、事業活動を行っています。また、ガバナンス戦略として、迅速な意思決定はもとより、コンプライアンス、リスクマネジメントの強化、適時適確な情報開示などによるステークホルダー重視の経営に取り組むものとしております。当社グループは、これらを追求する経営体制の構築に継続的に取り組むことにより、グローバル化する環境の中で企業価値の最大化を図り、成長し続けることができるものと考えます。

### ■実施状況

当社は、「経営意思決定・経営監督(ガバナンス)機能」と「業務執行(マネジメント)機能」を明確化する経営システムとして執行役員制度を導入する一方、取締役と執行役員の相互連携強化を図り、経営の機動性と実効性を高めるため、取締役が執行役員を兼務する体制としております。

また、「取締役会」を経営に関する意思決定と監督に特化する「ガバナンス機能」の機関として位置付けているほか、経営全般の基本方針・課題等について取締役の討議を深める一方で、経営課題の早期把握、施策立案に係る方針決定の効率化・迅速化、施策の適時適確な執行を図るため、「経営推進会議」を設置しています。

業務執行の権限については、「権限規程」に定めておりますが、その中でも重要な案件について「経営推進会議」において、事前に十分審議、検討を重ねた上で取締役会に諮り意思決定を行う体制となっています。

内部統制システムの整備の状況については、CSR室(10名)を中心とした社内・グループ内の情報収集のほか、社長を委員長とするコンプライアンス委員会を設置し、また社内と社外に内部通報窓口を設置するなど、適時に対応できる体制をとっています。

また、「ユニチカ行動憲章」「ユニチカ行動基準」をグループの全役員・従業員等に配布するほか、適宜CSR室による研修を行うなど、コンプライアンスの啓蒙に努めています。

## 内部統制

2007年4月から、内部統制推進室を設置し、財務報告に係る内部統制の構築を進めてきました。2008年7月にはCSR室を設置し、内部統制に関連した部署を統合し、内部統制の推進に取り組んでいます。

### 基本方針

「ユニチカ内部統制基本方針」は以下の9項目です。

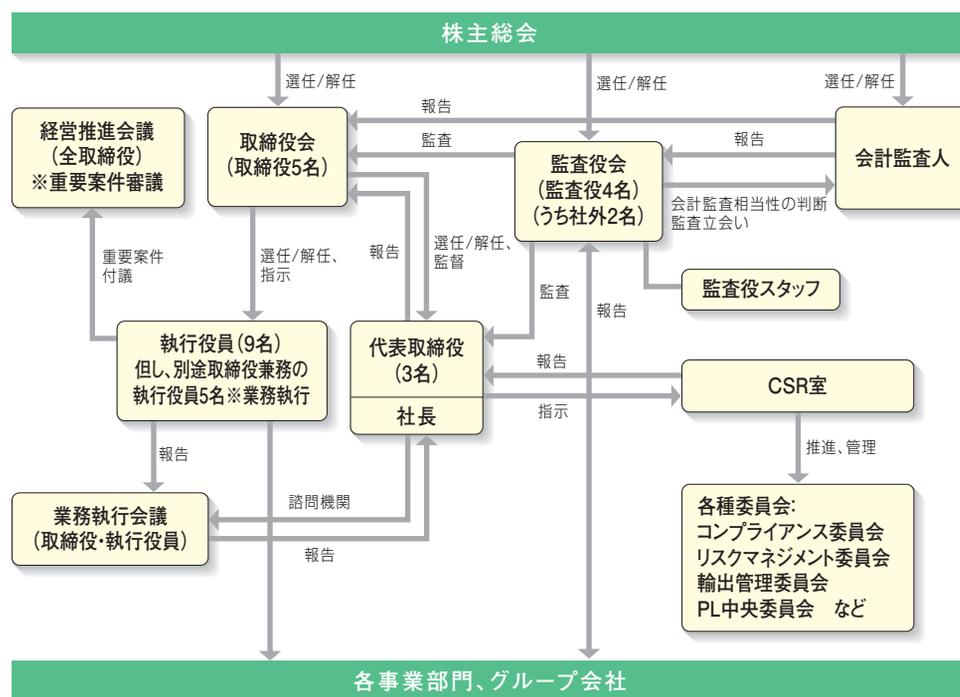
#### ユニチカ内部統制基本方針(大項目)

1. 取締役・使用人の職務執行が法令・定款に適合することを確保するための体制
2. 取締役の職務の執行に係る情報の保存・管理に関する事項
3. 損失の危険の管理に関する規程その他の体制
4. 取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制
5. 企業集団における業務の適正を確保するための体制
6. 財務報告の信頼性を確保するための体制
7. 監査役がその補助すべき使用人を置くことを求めた場合における当該使用人に関する体制並びにその使用人の取締役からの独立性に関する事項
8. 取締役及び使用人が監査役に報告するための体制
9. その他監査役による監査が実効的に行われることを確保するための体制

### 体制

コーポレート・ガバナンス、公正な企業活動を推進するための体制を下図のように定めています。基本にあるのは、上記の「ユニチカ内部統制基本方針」です。この体制により、コンプライアンス、情報の保存・管理、リスク管理、取締役の職務執行効率化、業務の適正の確保といった内部統制を厳正に行っています。

#### 体制図



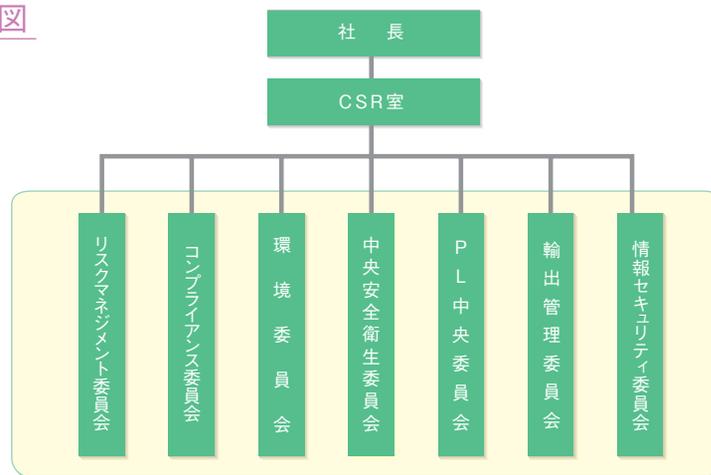
## CSR推進体制

環境への配慮や安全対策をはじめコンプライアンスやリスクマネジメントなどCSR全体を推進し、統括する組織として2008年からCSR室およびCSR担当役員を新設しました。

CSR室を中心に各種委員会と事業本部からなる管理体制を確立し、CSR活動を推進しています。

重点活動としては、(1)環境管理・安全衛生管理、(2)コンプライアンス推進、(3)情報セキュリティ管理、(4)製品安全性の確保などがあります。

### CSR推進体制図



## 環境管理・安全衛生管理

ユニチカでは、環境委員会を年1回定期的に開催し、環境配慮型経営の基本計画、進捗状況の検証、その他環境に関する重要事項の審議決定を行っています。また、環境委員会では事務局による各事業所の環境監査を実施しており、その結果を環境委員会で報告しています。

安全・環境対策の専任部署として活動する中央安全衛生委員会及び環境委員会には、事業所、関連会社が組織する環境安全グループの上部組織として、実効力のある施策をリードできる体制で運営しています。

## 情報セキュリティ管理

インターネットの普及などで、情報へのアクセスが容易になる中、ますます重要となった情報の管理とセキュリティ確保に取り組んでいます。

### 情報セキュリティ

情報資産の機密性保持、不正利用の防止を目的として、ユニチカは2005年に「情報セキュリティ基本方針」を定めました。「情報セキュリティ宣言」を掲げ、その力強い推進を表明するとともに、情報セキュリティ委員会を中心とした管理・運用体制を確立。事業活動における情報の保護とその有効利用を図っています。

2009年度には、セキュリティ対策標準、実施手順などの策定・施行を行い、情報管理責任者会議を開催するなど、体制の再構築を行いました。

#### ユニチカ 情報セキュリティ宣言(前文略)

1. 情報セキュリティポリシーを基に情報セキュリティ対策を実施します。
2. 情報セキュリティ管理体制を構築し組織的に取り組みます。
3. 役員ならびに全従業員に対し情報セキュリティポリシーの啓蒙と教育を実施し、情報セキュリティ事故の防止に努めます。
4. 継続的に情報セキュリティの改善に努めます。
5. 個人情報保護法をはじめとして関連するすべての法令その他の規範を遵守します。

\*情報セキュリティポリシーとは、「情報セキュリティ宣言」「情報セキュリティ基本方針」「情報セキュリティ対策標準」「情報セキュリティ実施手順」により策定・管理される文書。

## コンプライアンス推進のために

ユニチカでは、1998年に「ユニチカ行動憲章」を制定。さらに、コンプライアンスを徹底しながら人々の暮らしと環境に貢献する企業として、ユニチカグループの従業員が活動できるよう、具体的な行動などの基準を明記した「ユニチカ行動基準」の冊子を、すべての役員と従業員に配布しています。

また、毎年、新入社員をはじめ全ての昇格者研修時にコンプライアンス研修を実施することで、従業員へのコンプライアンス意識の周知・定着に努めています。



### ■ユニチカ行動憲章

ユニチカ行動憲章は、ユニチカが社会的使命を果たす基本的な方針です。ユニチカ及びグループ会社の全役員、社員に適用しています。

ユニチカは、法律、国際ルールを順守するとともに、社会的良識を持って行動します。

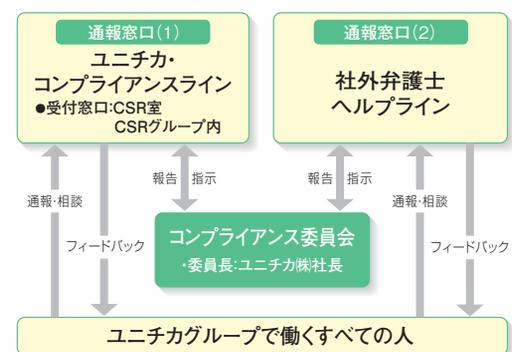
1. 社会に有用な財・サービスを環境・安全に十分配慮して開発・提供します。
2. 公正で自由な競争を行い、また政治・行政とは健全な関係を保ちます。
3. 広く社会とのコミュニケーションを図り、企業情報を適時・公正に開示します。
4. 安全で働きやすい職場環境を確保するとともに、従業員の人格・個性を尊重します。
5. 海外の文化・慣習を尊重し、地域の発展に貢献します。
6. 秩序・安全に脅威を与える反社会的勢力には毅然と対応します。
7. 「良き企業市民」として基本的人権を尊重し、社会貢献のための活動を行います。

### ■内部通報窓口の設置

ユニチカでは、2006年に「公益通報（内部通報）取扱規程」を施行し、従業員が不正・違法行為に気づいたらすぐに通報できるよう、社内、社外の2つのルートを設定した通報窓口も整備しました。コンプライアンス委員会を中心に、社内のコンプライアンスの徹底を図っています。

また、イントラネットなどを利用したコンプライアンス順守のための啓蒙活動の一環として、内部通報窓口の認知度向上のための情報を随時、従業員に発信しています。

### ■ユニチカの内部通報窓口



### ■セクハラ・パワハラ相談窓口の設置

ユニチカグループでは、セクシュアルハラスメントに関する相談窓口を1999年から各事業所やグループ会社内に設置し、早期発見・早期解決を目指してまいりました。

相談窓口の設置から約10年が経過し、ユニチカグループ内でのセクシュアルハラスメントに対する従業員の意識は向上し、一定の効果がみられました。

ここ数年、新たにパワーハラスメントに対する社会の認識も高まりつつある状況から、2010年7月からはパワーハラスメントに対する相談も正式に扱うこととし、職場におけるハラスメント対策窓口として対応を強化することとなりました。

## お客さまとのかわり

PL・品質保証を通して製品安全の向上や品質向上を図り、お客さまのご満足を第一に製品づくりに努めています。

## 安全な製品を提供するために

ユニチカは、お客様に安全な製品をお届けするために、製品安全管理規程を制定しています。基本方針から責任の所在、推進体制、マニュアルの運用や適用の細則までを詳細に定めています。ユニチカ及びグループ会社は、この規程にのっとり安全な製品の製造、販売に努めています。製品の安全を図るために設置されたPL中央委員会を中心とする推進体制については下に図解します。



## 2009年度製品安全に関する結果

PL(製造物責任)に関する事故はありませんでした。

※事故につながるおそれのあるようなクレームについても、PL中央委員会で情報を共有化し、日々、再発防止の対策をすすめるなど改善活動を行っています。

## 品質保証活動

お客さまにご満足いただける商品を提供するため、ユニチカグループでは品質マネジメントシステムの認証取得をすすめています。ISO9001を基本とした総合的な品質マネジメントシステムを確立し、継続的な改善を図ることによって品質保証活動を展開しています。

## 株主と投資家の皆様とのかかわり

当社は、「ステークホルダー重視の経営」の観点から、株主・投資家の皆様に対して多様な機会を通じて、適時適確な情報開示に努めております。これら活動を円滑に行うために、2003年1月にIR部門を新たに設置し、従来の広報部門との連携の下にIR広報グループとして活動を展開し、株主・投資家の皆様との対話の充実を図っております。

## IR活動の状況

- 定時株主総会

最新の業況のご説明、株主の皆様との対話を通じて、当社の経営状況と方針などについての理解を深めていただけるよう努めております。
- 決算発表及び説明会

年2回、第2四半期決算と通期決算発表日には新聞記者の皆様を対象にした決算報告を、また同発表日の約1週間後に、機関投資家及びアナリストの皆様を対象とした決算説明会を、それぞれ実施しております。
- 機関投資家訪問

機関投資家、アナリストの皆様へ訪問し、個別の取材対応を行っております。
- 各種発刊物

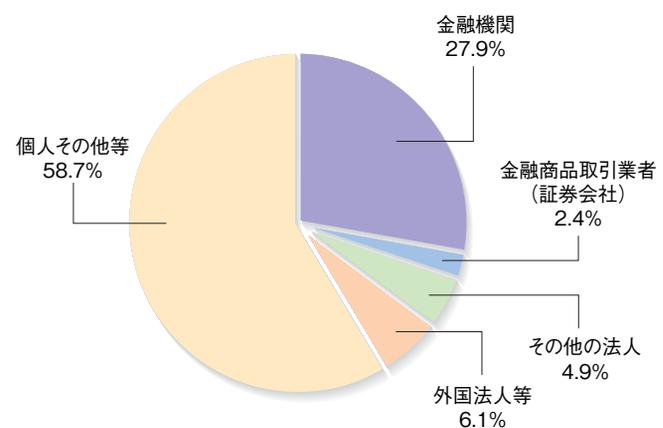
・決算短信(年4回 四半期ごと 5月、8月、11月、2月発行)  
・株主通信(年2回 第2四半期、通期決算後)  
・会社案内
- ホームページ整備

当社ホームページ「株主・投資家の皆様へ」において、各種開示情報を記載しております。

## 株式の状況(平成22年3月31日現在)

- 発行済株式の総数 475,969,000株
- 株主数 66,764名
- 単元株主数 56,363名

### 株式の分布状況





## 社会性報告

UNITIKA Group  
Corporate Social Responsibility  
Report 2010

### 地域社会とのかかわり

美化運動やボランティア、地域と連携した防災活動、あるいは様々な情報発信を通じて、環境保護やエコ社会の発展を地域のみならずとも目指しています。

### 社会貢献に対する取り組み

「京都議定書」採択の地として環境施政を展開している京都府が、その一環として、環境配慮活動の実践により地球環境保全や循環型地域社会づくりに率先して取り組んでいる事業所等を認定・登録する制度が「エコ京都21(京都・環境を守り育てる事業所等)」です。この活動に、ユニチカの宇治事業所は当初から参画し、2004年12月に、創意あふれる環境配慮活動を推進している事業所・団体を対象とする、エコスタイル部門の認定・登録を受けています。



### 地域の美化運動への参加

宇治事業所では、周辺地域を美化するボランティア活動を積極的に行っています。

地域美化清掃活動である「クリーン宇治」運動に参加して、事業所周辺の清掃活動を年に3回実施しています。2009年度は、2009年7月9日、9月10日、2010年3月3日に延べ1,033名が参加しました。



宇治「クリーン宇治」

その他の各事業所も、社会貢献活動として事業所周辺の環境美化に努めています。

岡崎事業所では、毎月第二木曜日に、約80人が参加して、事業所周辺の清掃を実施しています。また、2010年3月の土曜日の1日、地域ボランティア活動として約150人が参加し、工場周辺地域の清掃を行いました。



岡崎「事業所周辺地域の清掃」

### 企業の森活動に参加

一方ユニチカユニオンでは、社会的なボランティアに対する意識の高まりを受け、1992年にはボランティア基金を設立し、国内外での活動をスタートしています。国内では身障者施設などでの支援活動や、ボランティアの裾野を広げるための研修会、海外においては、国際交流ワークキャンプへの派遣、災害支援に対するカンパ活動など、より一層ボランティア活動が活性化するように取り組んでいます。

2003年には組合結成30周年を迎えたことから、社会貢献、環境意識高揚を目的に「緑のプラン」をスタートさせ、『ユニチカの森』が誕生しました。和歌山県日高川町の山林2haにクヌギ、コナラ、ヒノキを植林し、年数回現地を訪れ、従業員による下草刈りや枝打ち等を行っています。2009年9月には、27名が参加して木の生育を良くするため、周辺の下草刈りと枝打ちを行ないました。また、和歌山県より「森林による二酸化炭素の吸収等環境保全活動」に認証され、100年間で約800tの二酸化炭素の吸収が見込まれています。



## 防災活動への取り組み

ユニチカは、生産事故や周辺被害事故を起こさない体制づくりはもちろん、事故や自然災害に備えた訓練活動にも積極的に取り組んでいます。生産施設の安全管理を徹底する社内基準として「新設備等の安全衛生および環境に関する事前評価指針」を制定しています。この基準に照らし、設備の新設・改造などを行う場合は、設計時と完成検査時の計2度にわたり厳正な審査を行い、災害防止に努めています。また、ボイラーや圧力容器を用いる事業所には、毎年の法定点検義務が課せられていますが、適正な自主管理体制や一定の要件が所轄労働基準監督署により認められると、法定検査が2年に1回へ延長可能となります。ユニチカでは2事業所(宇治・岡崎)が認定を受けています。

垂井事業所では、春と秋の全国火災予防運動に合わせ、防火設備点検、通報訓練、防火パトロールなどと合わせて、消火訓練を行いました。春は新入社員、異動者を中心に消火器の使い方を訓練しています。2010年3月26日の消火訓練では、粉末消火器による初期消火訓練と消火栓からの放水訓練を実施しました。

宇治事業所では、春の火災予防運動期間中に、部署ごとに通報・連絡・避難・初期消火などの防災訓練を実施しました。また、社員寮での災害を想定した防災訓練も実施しました。



消火栓からの放水訓練(垂井事業所)



社員寮防災訓練(宇治事業所)



初期消火訓練(垂井事業所)



社員寮防災訓練(宇治事業所)

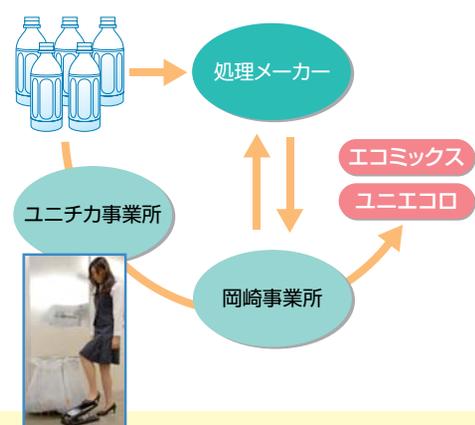
### TOPICS

●トピックス●

### ペットボトル回収運動について

ユニチカでは、リサイクル商品(エコマーク取得)として、再生ポリエステル繊維「ユニエコロ」や再生ポリエステル不織布シート「エコミックス」を製造販売しています。地球環境保全に対する取り組みのひとつとして需要は拡大傾向にあり、重要な製品に育っています。その原料となる使用済みのペットボトルの回収運動を社内で実施しています。各事業所の従業員やその家族が協力して使用済みペットボトルを洗浄後分別回収します。それを岡崎事業所に集めて、処理メーカーでフレーク化するものです。宇治、岡崎、大阪から回収運動がスタートし、現在ではユニチカトレーディング本社、豊橋、坂越、常盤、垂井へと広がり、従業員の参加意識も高まっています。

#### ユニチカペットボトル回収システム



## 従業員とのかわり

社員の自己実現を支援する人事制度を運用しています。また、雇用や職務の機会均等を図るとともに、安全・衛生に配慮した快適で働きやすい職場環境づくりに努めています。

### 人事制度

#### ■評価制度

ユニチカの人事評価制度は、社員の「やる気」を大切に、組織の活力を高めていくことを目的としています。成果を出した人や困難な課題にチャレンジしている人が、より報われる「成果主義的人事評価制度」を取り入れています。具体的には、年2回の目標管理制度と年1回のコンピテンシー評価制度により、目標に対する達成度を公正に評価し、能力開発目標を明確にして、人材育成に直結させています。評価結果については、上司との面談を通じて社員一人ひとりへ、確実にフィードバックを図り、評価の透明性、納得性を高めています。

#### ■自己申告制度(キャリアプラン)

毎年1回人事評価制度と同時に「キャリアプランシート」という名称の適性・配置自己申告シートを提出することとしています。このシートの内容は(1)現職に対する考え。(2)中長期的な視点での自己キャリアプラン。(3)キャリアに関する当面の希望(異動希望の有無など)。(4)自分の強みやキャリアプラン実現に向けての取り組み。(5)配置に関する特記事項(配慮事項など)や職場における改善提案などがあり、「能力開発目標」や「期待役割」について明確にするツールとしても活用しています。更に、一定年齢以上の者には再雇用制度の希望の有無についても確認しています。またユニチカでは、優秀な人材育成の観点から、ジョブローテーションが重要と認識しており、複数の部署を経験することによる能力向上を図るとともに、早期抜擢等の目的で若手を中心に適宜ローテーションを実施しています。

### 均等な機会の提供

#### ■女性の活躍

ユニチカでは、女性の能力や感性を評価し、採用や昇進・昇格等で差をつけず、女性の積極的活用に取り組んでいます。ここ5年の女性採用比率は20.3%で、女性管理職も活躍しています。

#### ■仕事と育児の両立支援制度

平成22年7月1日現在

	妊 娠	出 産	1歳6カ月または子が1歳を超えた年度末(最大)	小3終期	
休職・休暇	生理休暇	つわり休暇	産前産後休暇	育児休暇	子ども看護休暇(10日/年)
勤務時間		通勤緩和 (1)1日1時間以内での時短 (2)1時間以内の時差出勤 ※フレックス制対象者除く 時間内通院			育児のための時短 (1)子が3才までは1日2時間以内の時短で6時間 (2)1日1時間以内での時短 (3)1時間以内の時差出勤 ※フレックス制対象者除く (4)所定外労働時間の制限
その他		フレックスタイム制			フレックスタイム制

#### ■ワーク・ライフ・バランスへの取り組み

ユニチカでは、職業生活と家庭生活の両立や高齢化問題に対応するため、育児休暇や介護休暇のできる環境を整備しており、具体的には法定を上回る育児休暇、介護休暇の期間や子ども看護休暇を導入しています。さらに、「次世代育成支援対策推進法」に基づき、男性の育児参加促進にも取り組みを進めており、女性社員だけでなく、男性社員も育児休暇を取得しています。

(人)

	育児休暇者数	介護休暇者数
2004年度	27	1
2005年度	17	0
2006年度	27	3
2007年度	26	0
2008年度	18	4
2009年度	16	1

#### ■再雇用制度

ユニチカでは、60歳を超えても同じ仕事を続けることができるよう、「エルダー社員制度」を設け、意欲がある人を積極的に再雇用しています。

## 人財育成

高いレベルの業績目標を達成するためには、組織を構成する社員一人ひとりの能力を高めることが必要と、ユニチカは考えています。そこで、処遇や評価などの人事諸制度と能力開発や研修体系などの能力育成制度の両面から『人財育成』を強力に推進しています。

この考えに立ち、ユニチカ独自の研修施設として「ユニチカ研修センター」を保有。各種研修会を開催し多くの社員が受講しています。

一方、自己啓発支援として、資格取得援助制度、通信教育、国内大学への留学制度などがあり、チャレンジ精神の高い社員が意欲的に利用しています。

※ユニチカでは、「人(=社員)は会社の“財産”」との考えから、人材ではなく「人財」と表現しています。

### 研修体系(プログラム)と受講者数(2009年度)

- |  |   |
|--|---|
| <p><b>1</b> 階層別研修(544名受講)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(1)昇格者研修(216名)</li> <li>(2)若手社員教育(328名)</li> </ul> <p>新入社員入社時研修、<br/>基礎講座、<br/>製造現場リーダー養成講座</p> | <p><b>2</b> 専門教育(122名受講)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(1)コンピテンシー強化研修<br/>法務研修</li> <li>(2)OJD研修<br/>責任者研修、<br/>リーダー研修</li> <li>(3)品質管理研修<br/>実験計画研修<br/>品質管理入門</li> </ul> |
|--|---|



## メンタルヘルスの取り組み

厚生労働省の「労働者の心の健康保持増進のための指針」に基づいて、積極的に取り組んでいます。管理職登用時には、メンタルヘルス研修を行い、役割認識や管理職自身及び従業員の「心の健康づくり」に取り組んでいます。

2010年度からはメンタルヘルス疾患による長期休職者の「復職支援ガイドライン」を導入しました。

従業員一人ひとりの予防から復職までをサポートし、健康管理・健康増進を図っていきます。

## 人権推進の取り組み

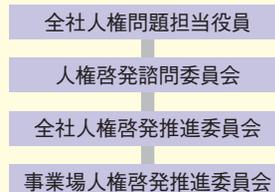
### 人権啓発活動

ユニチカでは、人権啓発にグループを挙げて取り組んでいます。従業員に配布しているユニチカ行動基準に人権尊重について明記するとともに、人権啓発推進組織を整備し、1年に1度は人権啓発研修を実施しています。

さらに、大阪同和・人権問題企業連絡会会員として、人権啓発情報の収集等幅広く人権問題に取り組んでいます。

男女雇用機会均等法施行に伴いセクシュアルハラスメントやパワーハラスメントについても、各事業場に相談窓口を設置し、社員の意識・認識を高めています。

### 人権啓発推進委員会 組織図



### 強制労働

ユニチカでは、グループ各社並びに海外法人において、国際人権規約・子どもの権利条約等の国際条約に反する強制労働および児童労働は行っておりません。

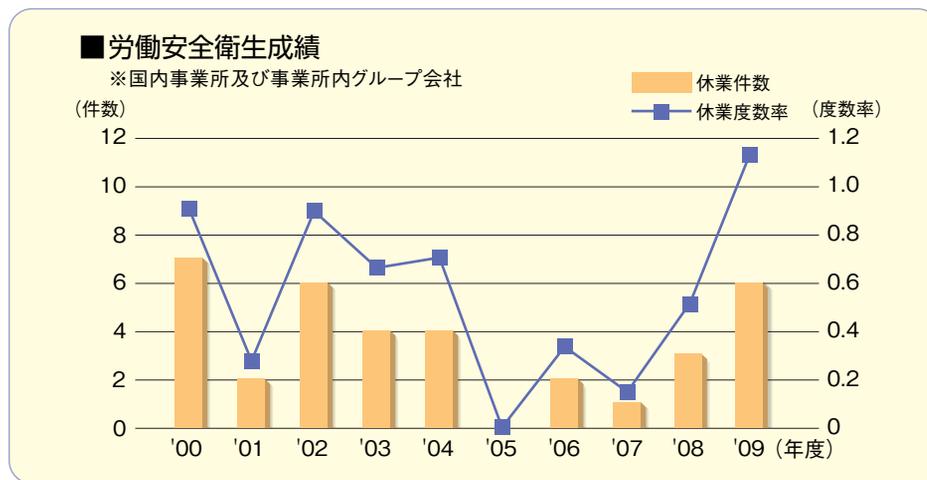
### 公正な採用活動

厚生労働省「公正な採用選考のために」の趣旨を踏まえ、独自の『ユニチカ新卒採用面接マニュアル』を作成しています。採用選考に当る面接官や採用関係者に会議・研修の場で配布・周知して徹底を図り、公正な採用活動を推進しています。

## 安全衛生に対する取り組み

ユニチカグループでは、2008年から始まった中期計画(第14次プログラム'08~'10年)において、「休業災害ゼロ」を目標に設定しておりますが、2009年度の休業災害の発生件数は7件と2008年度に対して増加しました。また、2009年度の度数率も1.17となり、悪化しました。しかしその反面、これまでの中期計画を柱とした安全衛生活動の成果として、環境事業本部において無災害1000万時間を達成するなど一定の成果も上げるに至りました。

労働災害の増加の原因として、設備の老朽化、世代交代などによる事業所、グループ会社、あるいは、職場における危険性の増大が考えられることから、ユニチカグループでは、事務局により、事業所やグループ会社に対して安全診断を実施するなど啓発活動に注力しています。また、リスクアセスメントによる職場に潜む設備の危険性の洗い出しを図り、労働災害の低減対策を実施していきます。



## 石綿関連の現状と対応

石綿による健康被害への関心の高まりを受けて、ユニチカグループでは、2005年にグループ横断的な機能として「石綿関連対策会議」を設置して、石綿に係る対策を推進しています。

飛散性石綿を含む部材が露出している箇所については、既に除去、封じ込め、あるいは囲い込み等の処置を完了しています。また、封じ込めや囲い込みを行っている飛散性石綿および非飛散性石綿について、定期修理などの機会にあわせ、適切な方法にて除去を進めております。

また、健康状況の確認のため、過去に石綿を取り扱う作業に従事していた従業員及び退職者で石綿健康診断を希望する人について健康診断を実施しました。この結果、2010年3月現在で把握している従業員及び退職者の健康被害については、労働災害認定者は6名(うち死亡者は5名)、石綿による健康被害救済法認定者は3名(うち死亡者は3名)です。事業所やグループ各社周辺の住民の方からの健康被害のご相談はありません。

労働災害認定者……………6名(5名)  
石綿による健康被害救済法認定者……………3名(3名)  
( )内は死亡者



## 環境基本方針

ユニチカは、1993年を環境元年とし、宣誓、基本理念、行動指針からなる「ユニチカ地球環境憲章」を制定しました。以後この憲章にのっとり、環境に配慮した企業経営を行うとともに、様々な環境活動に取り組んでいます。

### ■ユニチカ地球環境憲章

私たち人類の活動範囲が広がり、活発となるに伴って、空気、水、土などの自然環境が地球的規模で急激に変化し、地球という限られた生態系の中で、私たちと共に生きている動植物のみならず、私たちの存亡さえ危惧される事態に立ち至っている。ユニチカは、一世紀余りにわたる事業活動を通じて社会に貢献してきたが、このような地球環境の厳しい現状を深く認識し、地球環境の保護、改善に一層の配慮をし、適切な方策を講じることが企業活動の根幹であることを宣明する。

### ■基本理念

暮らしと技術を結び、人と自然との共生に貢献する企業活動を行う。

### ■行動指針

1	地球環境を常に配慮する	企業活動を行うに当たっては、地球環境に与える影響を常に配慮する。特に製品の製造に当たっては、地球環境に悪影響を与えないように厳格な管理をする。
2	技術開発で貢献する	地球環境の保護、改善に貢献する技術の研究開発を積極的に推進する。
3	資源・エネルギーを効率的に利用する	資源・エネルギーの効率的な利用を促進するとともに、限られた資源のリサイクルに努める。
4	広報、啓発活動を推進する	地球環境の保護、改善に関する情報について積極的な広報活動を行うとともに広く啓発活動を推進する。
5	ユニチカグループの総合力を発揮する	ユニチカグループは、この憲章にのっとり総合力を発揮して、地球環境の保護、改善の実現に努める。

## TOPICS

### ●トピックス●

#### 第1回「ユニチカ エギングフェスタ2009 in 串本・有田漁港」 大会参加者全員で港周辺の清掃を実施

ユニチカ株式会社が主催する第1回「ユニチカ エギングフェスタ2009 in 串本・有田漁港」が、2009年10月18日(日)、和歌山県串本町有田漁港を基点に開催されました。ルアー(疑似餌)でイカを釣り上げる大会として開催されたもので、多くの釣りファンにご参加いただき釣果を競っていただきました。競技終了後には、参加者全員で会場となった港周辺の清掃を実施し、釣り場環境の維持にもご協力いただきました。

●詳しくご紹介していますー

「ユニチカフィッシングランド」URL <http://www.unitika.co.jp/fishing/>



## 環境保全活動の経過

30年以上にわたって連綿と進化し、さらに未来へと続いていく環境経営を進めます。

ユニチカは、我が国が公害問題で揺れていた1973年に「環境保全規程」を定め、規制値や基準値が守られればよとする、他律的な生産活動とは一線を画しました。1991年には全社組織として環境保全委員会を新たに設け、1993年の「ユニチカ地球環境憲章」制定、年1回の環境監査開始と、現在まで続く環境配慮型経営の基本路線を確立。1998年には、ユニチカグループとして社会的使命を果たすための基本的な行動方針を定めた「ユニチカ行動憲章」を制定し、その第一条において環境・安全への配慮責任を明記しています。この行動憲章を受け、日頃の事業活動において守るべき具体的な組織・従業員の行動基準を定めたのが、2001年4月に制定・施行した「ユニチカ行動基準」です。環境・安全から、コンプライアンスや、社会、ステークホルダーとの共生意識へと広がる、企業の社会的責任(CSR)の考え方に立った企業活動へと明確な一歩を印しました。

## 環境保全活動の歩み

1973. 09	環境保全規程を制定・施行
1991. 10	環境保全規程を改正、環境保全委員会設置
1993. 04	地球環境憲章を制定・施行
1993. 05	環境保全規程を改正し、環境規程として制定・施行／環境委員会を設置し、毎年開催
1994. 05	環境監査を開始(年1回) (事業所自主監査と、本社スタッフによる社内監査)
1996. 07	環境中期計画第1次(1997～1999年度)目標策定
1996. 09	社内啓発誌“かんきょう”を発行開始
1997. 10	主要事業所でISO14001の認証取得に向けて活動開始
1998. 01	ユニチカ行動憲章制定・施行
1999. 01	ユニチカケミカル(株)がISO14001取得(グループ第1号)
2000. 10	環境中期計画第2次(2000～2002年度)目標策定
2001. 04	ユニチカ行動基準作成
2002. 10	ユニチカ環境報告書発行
2002. 10	環境中期計画第3次(2003～2005年度)目標策定
2005. 10	環境中期計画第4次(2006～2008年度)目標策定
2008. 10	環境中期計画第5次(2009～2011年度)目標策定

ユニチカは、環境に配慮した企業活動の国際的な基準となっている、ISO14001の認証取得にも積極的に取り組んでいます。現在は、関係会社の認証取得を支援する活動を開始し、各社の環境監査を行っています。

## ISO14001 認証取得状況

1999. 04	(株)アドール
1999. 11	ユニチカ坂越事業所
2001. 01	ユニチカテキスタイル(株)常盤工場
2001. 03	ユニチカ宇治工場
2001. 03	ユニチカ宇治プラスチック工場
2001. 03	ユニチカ中央研究所
2001. 03	ユニチカガラスファイバー(株)京都工場
2001. 03	(株)ユニチカ環境技術センター近畿事業所
2001. 10	ユニチカ岡崎工場
2001. 10	ユニチカ設備技術(株)中部事業所第2事業本部
2001. 10	日本エステル(株)岡崎工場
2001. 10	(株)ユニチカ環境技術センター中部事業所
2001. 12	ユニチカ垂井事業所
2001. 12	ユニチカ設備技術(株)垂井グループ
2003. 12	ユニチカガラスファイバー(株)垂井工場
2004. 02	ダイアボンド工業(株)
2004. 09	寺田紡績(株)
2008. 06	(株)ユニオン

### TOPICS

●トピックス●

### 環境格付け融資に対する評価

ユニチカは、「環境への配慮に対する取組みが特に先進的」という総合評価を受け、2007年度に日本政策投資銀行様から環境格付け融資を受けました。

これは、二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)の増減に影響を与えないカーボンニュートラルな素材として注目されるポリ乳酸(テラマック)の展開が、民生部門の低炭素社会への転換に先導的な役割を果たしたことに加えてエネルギー由来のCO<sub>2</sub>の排出量の劇的な削減が評価されたものです。経営全般、事業関連、パフォーマンスを含む環境スクリーニングの結果、3段階評価の中で最高格付けを受けました。



## 環境中期計画

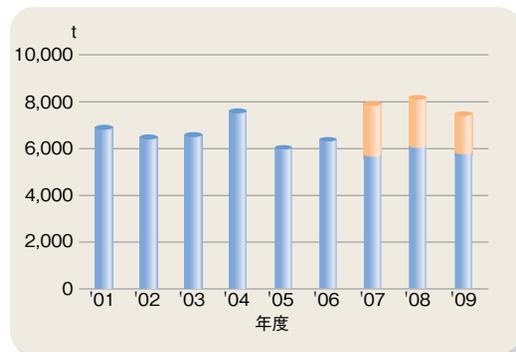
ユニチカグループは、環境中期計画を策定して、産業廃棄物の削減と資源・エネルギーの効率的利用を重点目標に計画的な改善に取り組んでいます。  
第5次環境中期目標からは、国内グループ会社を含めた新たな対象範囲として、2007年度の結果を基準にして中期目標を策定し取り組んでいます。

### 第5次(2009年度～2010年度)環境中期計画

重点課題	目 標	2009年度の結果	図No.
1 産業廃棄物量の削減	2007年度基準 4%削減	達 成	(1)
2 生産工程内ロスのリサイクル率の向上	2007年度基準 2%向上	減産の影響を受け未達となりました	(2)
3 エネルギー原単位の改善	最終年度 前年度比1%削減	減産の影響を受け未達となりました	(3)
4 エネルギー使用量の削減	1990年度比 2010年度10%削減	重油から液化天然ガスへのエネルギー転換、 コージェネレーションシステムの導入等の取り 組みにより達成しました	(4)

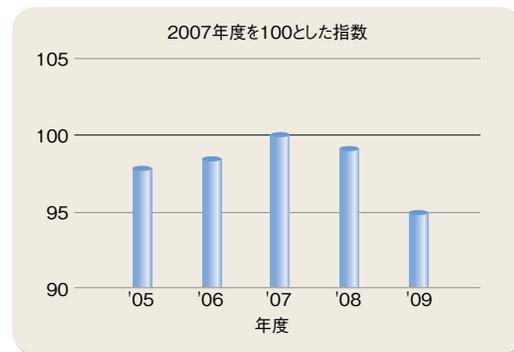
(注)第5次環境中期計画対象範囲:国内事業所、事業所内グループ会社、および国内グループ会社

● 産業廃棄物処理量推移 ●



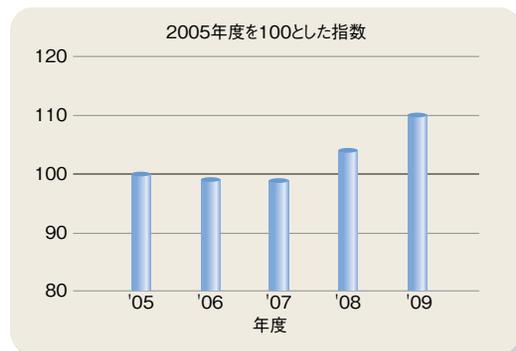
図(1)

● リサイクル率の推移 ●



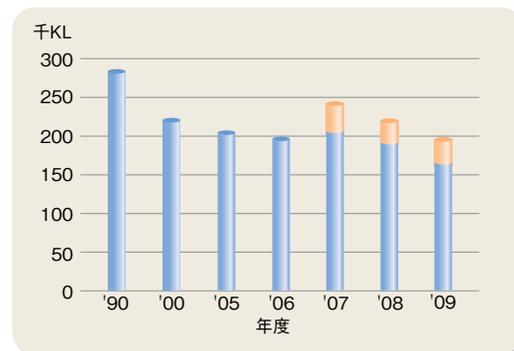
図(2)

● エネルギー原単位推移 ●



図(3)

● エネルギー使用量推移(原油換算) ●



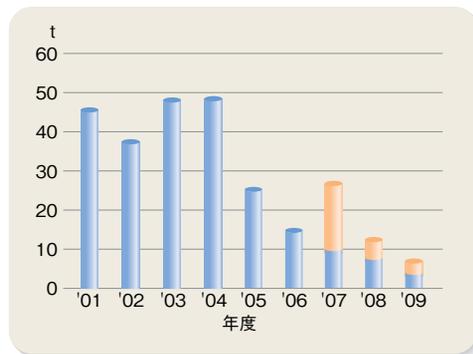
図(4)

■ ユニチカ国内事業所および事業所内グループ会社 ■ 事業所外グループ会社

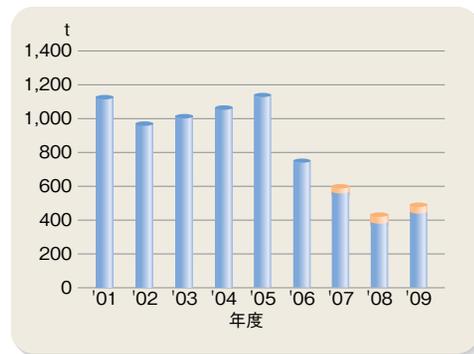
## 大気と水質への環境負荷低減

各生産拠点にて重油から液化天然ガスへのエネルギー転換、ディーゼル発電の停止等の施策により、ばいじん、NOx、SOx、および、CO2の削減に努めております。また、排水処理設備の適切な管理により、水質への負荷量低減に努めております。

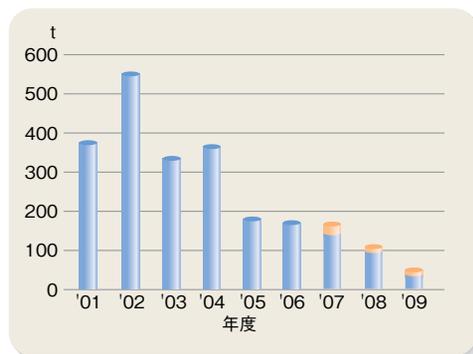
● ばいじん排出量推移 ●



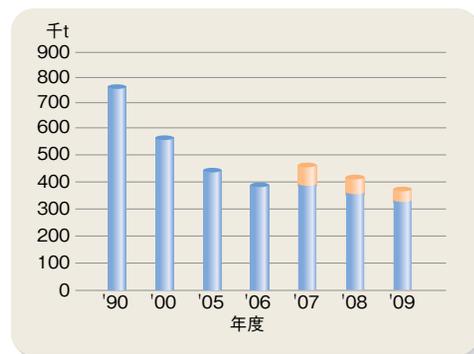
● NOx排出量推移 ●



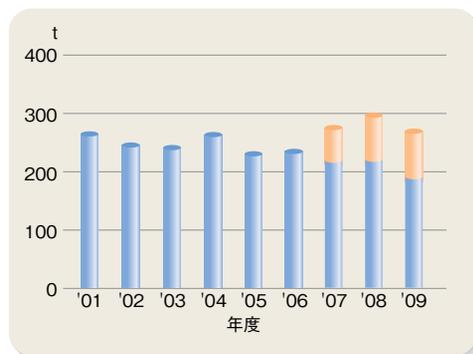
● SOx排出量推移 ●



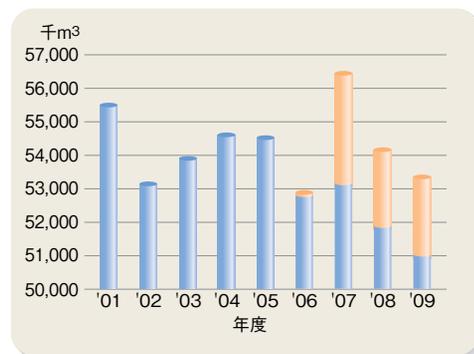
● エネルギー起源CO2排出量推移 ●



● 水域への負荷(COD)推移 ●



● 総排水量推移 ●



■ ユニチカ国内事業所および事業所内グループ会社 ■ 事業所外グループ会社

(注) Nox:窒素酸化物 Sox:硫黄酸化物 COD:化学的酸素要求量

## 化学物質管理への取り組み

ユニチカグループでは、人の健康や生態系に害を及ぼすおそれがある化学物質として、PRTR制度対象(化学物質排出移動量届出制度)となる物質について環境への排出量の把握と削減に努めております。

### ● 2009年度PRTR制度届出対象物質の排出量と移動量 ●

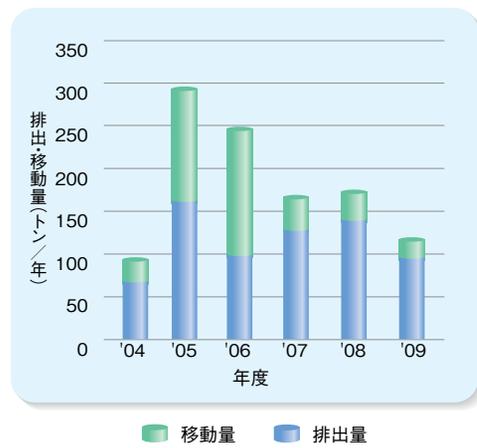
物質名称	大気	水域	排出量合計	移動量
アセトアルデヒド	5	1	6	—
石綿	—	—	—	—
ビスフェノールA	—	0	0	5
ε-カプロラクタム	14	0	14	—
ジクロロベンタフルオロプロパン(HCFC-225)	1	—	1	—
ジクロロメタン	41	0	41	8
テレフタル酸	—	—	—	1
トルエン	18	—	18	1
ホウ素及びその化合物	—	11	11	3
ポリ(オキシエチレン)アルキルエーテル	—	4	4	0
その他	1	0	1	3

ユニチカ国内事業所 および 事業所内グループ会社 合計	61	12	73	16
--------------------------------	----	----	----	----

ユニチカ事業所外グループ会社 合計	19	4	23	5
-------------------	----	---	----	---

(トン/年)

### ● PRTR制度対象物質の排出量・移動量 ●



## 物流にかかわる環境負荷の低減

物流においては、モーダルシフト(トラックから鉄道や海上輸送へ)、輸送効率化等を進め原材料、製品、廃棄物等の搬入と排出に伴う環境負荷低減に取り組んでいます。ユニチカが特定荷主(輸送量:30百万トンkm/年)として行政へ届け出た2009年度の輸送量は74.2百万トンkm、CO2排出量は24.2千トンとなりました。

## 環境に関する苦情

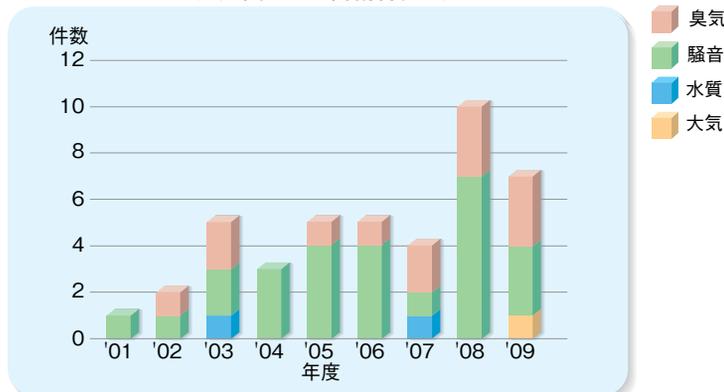
ユニチカグループでは、「人々の生活と環境に貢献し、社会的存在感のある企業を目指す」との経営ビジョンのもと、地域住民の皆様の生活に配慮した事業活動を展開しております。

それぞれの苦情に対し、その原因と実施した対策の効果について地域住民の皆様に確認し、コミュニケーションを図りながら再発防止に努めております。

今後も地域住民の皆様の快適な生活環境に貢献できるよう改善に努めてまいります。

なお、国内事業所、事業所内グループ会社、および国内グループ会社におきましては、2009年度に環境問題を引き起こす可能性のある事故・汚染はありませんでした。また、環境関連法令違反の事実もありませんでした。

### ● 近隣からの苦情件数 ●

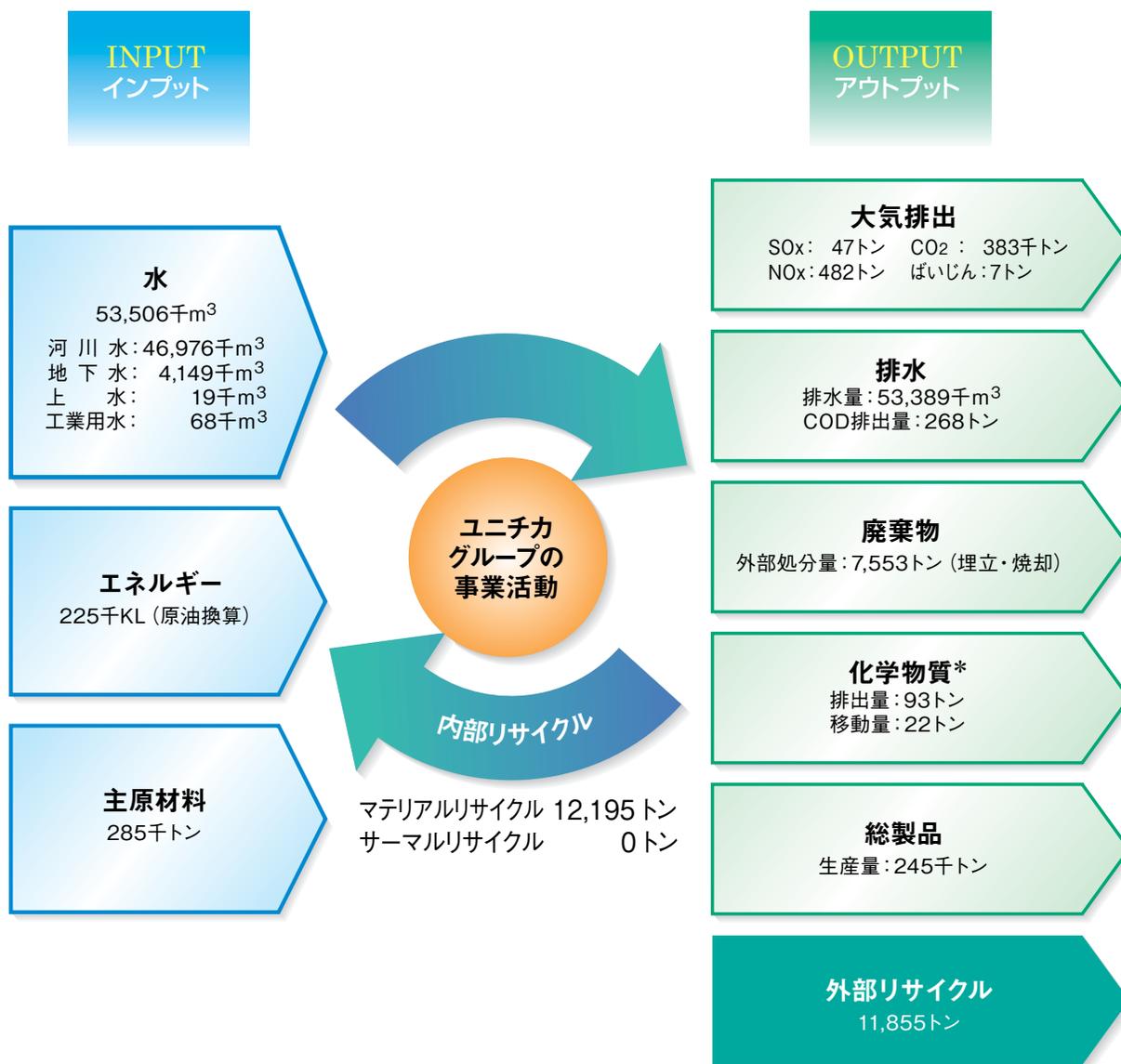


対象範囲:ユニチカ国内事業所および国内グループ会社

## 環境負荷の全体像

### ■事業活動における環境負荷(2009年度実績)

2009年度におけるユニチカグループのマテリアルフローは、下図のとおりとなりました。



\*PRTR制度届出対象物質

## 環境会計

ユニチカグループは、環境に配慮した事業活動の一環として環境会計に取り組んでいます。会計の算定にあたっては、2005年2月に環境省から公表された「環境会計ガイドライン2005年版」を参考にしております。ユニチカグループは、今後もより正確でわかりやすい環境会計の公開を続けていきます。

### ■環境会計の目的

- 環境保全に関する投資額や費用額の定量的把握、環境保全への取り組みの合理的な意思決定
- 環境会計情報のステークホルダーへの開示と説明責任の履行

### ■環境会計の集計方法

集計範囲:ユニチカ国内事業所および事業所内グループ会社、(株)ユニオン

対象期間:2009年4月1日～2010年3月31日

集計方法:投資額には環境を主目的としていない案件の設備投資分を含みます。  
また、費用額には労務費、経費、減価償却費を含みます。

ユニチカの2009年度環境関連の設備投資額は199百万円でした。省エネルギー・地球温暖化防止に関するものが主な投資対象となっています。

また、環境関連の費用額は1,488百万円でした。主な費目は公害防止設備の維持管理、廃棄物の処理(リサイクル費用を含む)、および環境負荷低減のための製品研究開発などです。

### ■環境保全コスト

(単位:百万円)

区分	設備投資額	費用額	備考
事業エリア内コスト	公害防止コスト	34	公害(水質・大気・騒音)防止対策
	地球環境保全コスト	104	省エネルギー、地球温暖化防止
	資源循環コスト	61	廃棄物処分、リサイクル
上・下流コスト	—	43	梱包材リサイクル
管理活動コスト	—	73	環境マネジメントシステム維持、環境教育、負荷監視
研究開発コスト	—	260	環境配慮型製品の開発
社会活動コスト	—	38	緑化改善、美化運動
環境損傷対応コスト	—	19	SOx負荷量賦課金
合計	199	1,488	

### ■経済効果

算定根拠が明確で、実質的な対環境保全効果の高い項目について計上しました。  
なお、推定的な効果は算定していません。

(単位:百万円)

項目	金額
省エネルギーによる費用の削減	105
省資源および廃棄物削減に伴う費用の削減	7
リサイクルによる有価物の売却益	119



## 環境報告

UNITIKA Group  
Corporate Social Responsibility  
Report 2010

### 環境保全のための技術と製品

ユニチカは、資源循環型のサステナブル社会実現を支援するという基本的な考え方に立ち、様々な製品や技術を提供しています。

### 水処理関連

- 上下水道施設
- 最終処分場浸出水処理施設
- 上水膜ろ過設備
- 生活排水処理設備
- 上下水高度処理施設
- 産業排水処理設備
- 造粒脱リン設備
- 農漁業集落排水処理施設
- 汚泥減量化設備
- ごみ焼却場排水処理施設

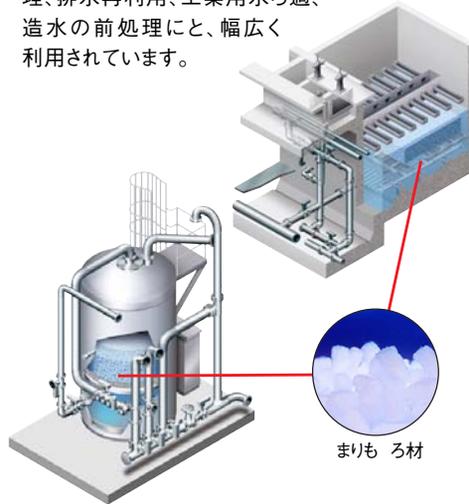
#### ■合流式下水道改善処理システム

雨天時になると下水処理場には短時間に多量の合流下水が流れ込み、処理が追いつかず、未処理のまま河川などに放流されてきました。そこでユニチカでは高速ろ過装置「まりも」をベースに、短時間に高速かつ安定した処理が可能な、「合流式下水道改善処理システム」を開発。効率のよい上下向流可変式高速ろ過を行い、雨天時にも晴天時にも高い処理能力を発揮します。雨天時には汚濁成分を最大2,000m/dのろ過速度で除去。晴天時には標準で1,000m/dのろ過速度を実現。高性能で安定した処理能力を、低コストで実現したシステムです。



#### ■高速ろ過装置「まりも®」

ユニチカは、特殊繊維体をろ材にした高性能の高速ろ過装置「まりも」を開発しました。従来の砂ろ過に比べると、ろ過速度が3~5倍という高速機能を有します。処理効率も一段と優れ、簡単に洗浄できるタイプのろ過装置で、長年繊維を扱ってきたユニチカならではの商品です。排水三次処理、排水再利用、工業用水ろ過、造水の前処理にと、幅広く利用されています。



#### ■造粒脱リン装置「フォスニックス®」

排水中のリンをリン酸マグネシウムアンモニウムの粒状体(MAP)として回収する装置です。MAPは肥料として有効利用できます。



### 大気汚染防止関連など

- 脱臭設備
- 集塵装置
- 土壌調査・分析
- 土壌汚染浄化対策
- 各種汚染浄化対策
- 薬剤・樹脂・ろ材

#### ■環境調査・測定分析 株式会社ユニチカ環境技術センター

ユニチカ環境技術センターでは、最新の設備と技術力を基盤に、環境調査、測定分析をはじめ、各種産業に必要となる様々な調査を行っています。ダイオキシン類の分析では、環境省が実施するダイオキシン類の受注資格審査認定を受け、高い信頼を得ています。ダイオキシンの分析をより正確に行うための極微量分析ができる体制も整備。また、最近注目されている土壌の調査においても多くの実績があり、土壌・地下水汚染の恒久対策を行っています。その他、シックハウス調査、大気質・気象・騒音・振動測定、水処理に関する技術支援、排ガス・悪臭・作業環境測定、河川水・排水・飲料水・アスベスト・絶縁油中微量PCBの分析など、生活環境を守るためのお手伝いをしています。



環境ホルモン分析



簡易ボーリングマシンによる試料採取作業

植物由来のバイオマス素材

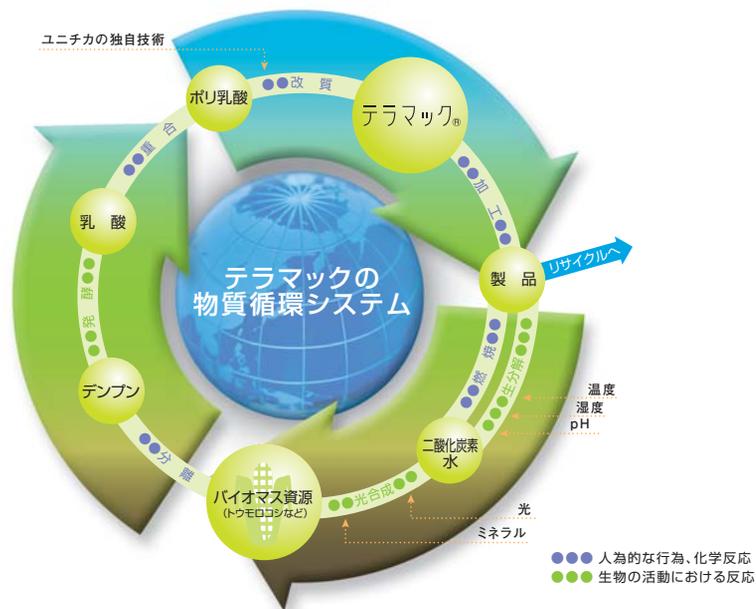
■テラマック®

「テラマック」は、トウモロコシなどの植物由来のポリマーからなるバイオマス素材です。バイオマスとは、化石資源を除く、再生可能な生物由来の有機性資源を指します。「テラマック」は最終的には二酸化炭素と水に分解し、これがトウモロコシなどの植物に吸収されて、ふたたび「テラマック」になります。つまり、自然界が本来そなえている「リサイクルシステム」に組み込まれているものです。

一方、従来のプラスチック製品は有限で再生不可能な石油が原料です。石油はそう遠くない将来には枯渇してしまいます。そこで今、石油を原料としないプラスチック素材「テラマック」に大きな期待が寄せられています。

「テラマック」の用途は多岐にわたり、洋服、食器、カップ、包装フィルム、化粧ボトル、ティーバッグ、プランター、ゴミ袋、電子機器部品など、生活の全般をカバーしつつあります。なかでも、「テラマック」のベースであるポリ乳酸由来の製品として世界で初めてユニチカが開発した耐熱発泡容器・耐熱食品容器は、熱湯注入や電子レンジでの加熱にも耐えることから、世界的に注目されています。また、耐久性や耐熱性の点で厳しいスペックが要求される携帯電話の筐体や、難燃性も要求されるデジタル複合機のパーツにも採用されています。最近ではアロイ技術により成形加工性や耐衝撃性を向上させた耐熱グレードの射出成形用樹脂を開発し、ヘルスマーターの本体外装などに採用されています。

植物の恵みと人の技術から生まれた「テラマック」。地球と人に選ばれる理想の素材を目指しています。



●テラマックは人体と環境への安全性にも優れています。

生分解性	JIS K6953 (ISO14855) 「制御されたコンポスト条件の好気的かつ究極的な生分解度及び崩壊度試験」合格
識別標準 認証基準	日本バイオプラスチック協会 (JBPA) のグリーンプラ識別標準制度・認証基準適合 (ポジティブリスト掲載、グリーンプラ認証マーク取得) JBPQ のバイオマスプラ識別表示制度・認証基準適合 社団法人日本有機資源協会 (JORA) のバイオマスマーク事業・認証基準適合
食品衛生性	食品衛生法 [厚生省告示第370号] 規格標準適合 米国 FDA/FCN (Food Contact Notification) No.178 認定 ポリ衛協ポジティブリスト掲載
抗菌性	ポリ乳酸には抗菌活性があることが報告されています。 (「防菌防霉」, vol.29, No.3, pp.153-159, 2001)
低燃焼熱	燃焼熱は約 19kJ/g と低く、石油系プラスチックの 1/2~1/3 で、焼却炉を傷めません。 焼却時に有毒ガス (ダイオキシン、塩化水素、NOx、SOx) を発生しません。

●こんな用途にお使いいただけます。



Ingeo™ のトレードマークがついたテラマック製品は NatureWorks Bland Policy に適合しており、NatureWorks® バイオポリマーを使用しています。  
NatureWorks, Ingeo, Ingeo ロゴは、米国及びその他の国々における NatureWorks LLC の登録商標です。  
www.natureworksllc.com

## 侵食防止シート

### ■セグローバ®

ユニチカは、平成9年6月に一部改正された河川法に基づき、自然環境や景観を配慮した侵食防止シート「セグローバ」を開発。一定の空隙と厚みが保持されるよう3D製編技術を駆使し、シートが水流に抵抗して、耐侵食性を高めることに成功しました。また、耐候性などの耐久性を考慮して、主に黒原着のポリエステルモノフィラメントを充て、一部に寸法安定性を付与させるため、芯鞘構造を持つバインダー繊維を応用。さらに、シートの表裏層は土砂充填性を考慮し、ハニカム構造としました。こうして生まれた「セグローバ」を護岸工事として応用することにより、芝や芽など草木植物の耐侵食力を補強することが可能。堤防法面や河岸の流水による侵食をくい止める、新たな侵食防止シート工法が実現できる素材といえます。

「セグローバ」はすでに、(財)土木研究センター発行の「侵食防止シートの性能評価証明書第0001号」を業界に先駆けて取得しています。

SEGURVA®



## 植物由来のバイオマス素材

### ■キャストロン®

100%植物由来の原料からなる『キャストロン』。非食物であるヒマ(唐胡麻)の種子を原料とした、環境負荷の少ないナイロン繊維です。

特性面においても従来のナイロン繊維には無い、その分子構造に起因する優れた耐摩耗性、耐屈曲疲労性、耐溶剤性、寸法安定性や低温柔軟性を有しています。軽量素材で、これらの特徴を生かしてカバン用途などの、非衣料分野での展開で期待される注目素材です。

CASTLON®



キャストロンが採用されているカバン

## ガラスビーズ

### ■ロードマーキング用ユニビーズ®

ロードマーキング用ユニビーズは、透明微小球レンズとしての特性である「光の再帰反射効果」を利用し、各種ロードマーキングに使用され、夜間の視認性を上げることにより交通安全に役立っています。

原料には、建築廃材等のガラスカレットを使用し、再資源化した「リサイクル製品」です。

土壌に負荷を与える有害物質の溶出はなく、安全で環境に優しい製品を提供しています。

環境への負荷低減に寄与している事により、(財)日本環境協会からエコマークの認定(認定番号 05 131 001号)を受けています。

また、地球にやさしいグリーン購入の対象製品として、大阪府知事が認定する「大阪府認定リサイクル製品」(認定番号20-126)にも登録されています。



UNIBEADS®  
ユニビーズ

再生ポリエステル

織 維

ユニエコロ®

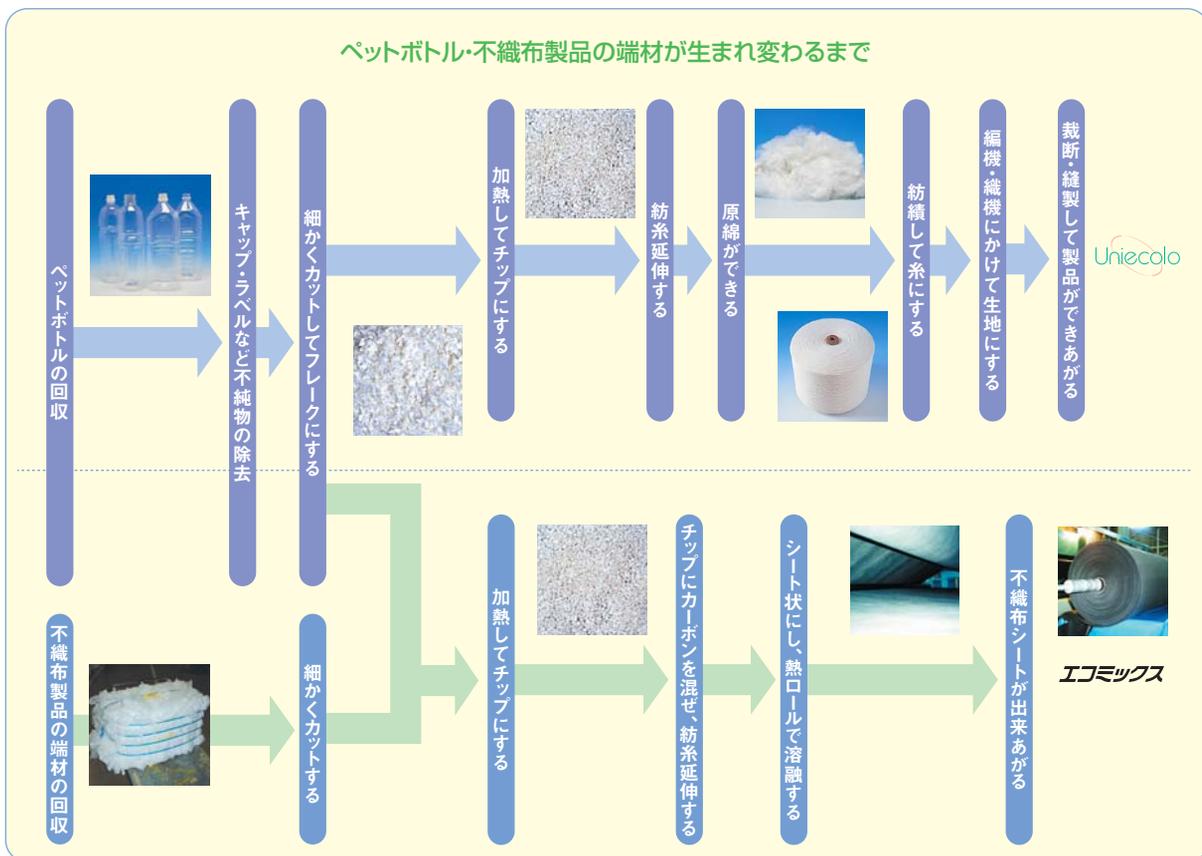
ペットボトルの需要は年々増え続けていますが、石化原料の高騰でペットボトル原料も高騰が続いています。飲み終わったペットボトルは、いまや貴重な資源です。ユニチカでは環境保全の一環としてペットボトルのリサイクル化に取り組み、従来からの優れた紡糸技術を生かして、「ユニエコロ」を開発しました。ソフトな風合い、ボリューム感があり、従来のポリエステルと同等の機能性も有しています。限りある資源の再利用と地球環境を考えた繊維です。



不織布シート

エコミックス®

ユニチカでは、環境保全の一環としてリサイクルに取り組んでいます。そこで、従来からの優れたスパンボンド技術を生かし、「ペットボトルまたは不織布製品の端材」を利用したポリエステル長繊維不織布「エコミックス」を開発しました。すでに(財)日本環境協会からエコマークの認定(認定番号第00105029号)も受けています。「エコミックス」は、優れた透水性、耐久性を有しており、土木用途のうち廃棄物処分場の遮水シートの保護マット、盛り土補強工法・港湾の防砂シート、河川護岸用吸い出し防止シート、さらにプラスチックボードドレーンといった用途での使用許可を得ております。サイズも経済的な幅広のシートで伸度が大きく、変形突起物などにも十分に対応。時代のニーズに即したシートとして注目を集めています。



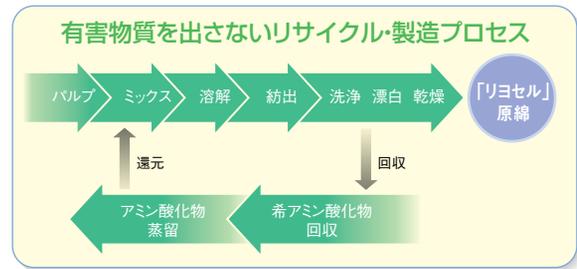
## 新天然繊維

### シルフ®

やさしい風合い、心地いいタッチ、豊かな表現力、仕立て映えの良さ…。どれもが衣料素材にとっては欠かすことのできない大切な要素です。それらすべてを満たしたうえで、新鮮かつ快適な着心地をもたらすこと。そんな新たな世界を広げていく素材「シルフ」が誕生しました。リヨセル原綿の開発スタートから10年以上の年月を経て、「シルフ」はよりいっそうの進化を遂げた原綿を最新の高度ファブリケーション技術によって製品化。高付加価値を持った素材バリエーションも広がり、リヨセル製品の世界がさらに大きくクオリティアップされました。また「シルフ」



は環境保全にかかわる優れた面も持っています。これからの時代に求められる新しいスタンダード素材——それが「シルフ」です。



## オーガニックコットン使用素材

### ネイチャーコット®

「Naturecot」は、Organic Exchange (オーガニック・エクスチェンジ) ※1の規格に則った安心できるオーガニックコットン使用素材です。

オーガニックコットンは、3年以上農薬を使用していない土壌で有機栽培されたコットン素材です。オーガニックコットンを取り扱うにあたり、お客様の手に確実にオーガニックコットン商品を届けるために第三者機関による認証によってオーガニックコットンの証明をすることが必要であると考え、Control union (コントロールユニオン) ※2にてOrganic Exchange (オーガニック・エクスチェンジ)の認証を取得し、トレーサビリティが可能な生産体制を整えました。

※1 Organic Exchange: アメリカに本拠を置く世界中でオーガニック商品の普及を目指すNPO (非営利団体)

※2 Control union: オランダ・ロッテルダムに本社を置くオーガニック認証機関の1つ



## エコラリー®

「エコラリー」は、使用済みユニフォームを回収して、反毛再生化。フェルト等としてカーペットや自動車の内装材など新たな製品として再利用される資源循環型のリサイクルシステムです。マテリアルリサイクルは循環型社会形成推進基本法における優先順位がリデュース、リユースに次ぐ環境への負荷が少ないリサイクルシステムとして注目されています。近年、ユニフォームに求められる役

割も環境への配慮や地域への貢献などの要素が重要視されるようになり、「エコラリー」は「企業と社会」を結ぶ環境保全活動のツールとして、また社会的信頼性を高めるツールとして環境への負荷が少ない持続的発展が可能な社会の実現をサポートします。



## 事業所情報

事業所	大気			水質								所在地 主要製品
	SOx	NOx	ばいじん	BOD	COD	浮遊物質	油分	窒素	リン			
単位	Nm <sup>3</sup> /時	ppm	g/Nm <sup>3</sup>	mg/l	Kg/日	mg/l	mg/l	mg/l	Kg/日	mg/l	Kg/日	
宇治事業所 【敷地面積】311,781m <sup>2</sup> ISO14001 認証番号 JCQA-E-0058-JCQA-E-0249	29.1	199	0.025	—	1131	30	16	—	722	—	98	京都府宇治市宇治戸ノ内5番地 ナイロン樹脂、ナイロン繊維、 エンジニアリングプラスチック、 ナイロン・ポリエステルフィルムなど
	21.6	69.4	0.015	—	353	5.5	0.55	—	116	—	7	
岡崎事業所 【敷地面積】313,865m <sup>2</sup> ISO14001 認証番号 JCQA-E-0292	93.29	100	0.05	25	718.7	20	10	15	385	2	51	愛知県岡崎市日名北町4-1 ポリエステル樹脂、 ポリエステル繊維、 スパンボンド(長繊維不織布)、 医療用具、環境事業など
	0.13	74	0	2.8	65.7	4	0	1.4	23.7	0.34	5.1	
豊橋事業所 【敷地面積】270,804m <sup>2</sup>	0.49	180	0.3	—	11.9	70	5	120	—	16	—	愛知県豊橋市曙町松並101 不織布 (土木・ルーフィング用シート)、 バイオ事業(ハナビラタケ)
	0.022	82	0.004	—	6.3	1	<1	12	—	0.42	—	
坂越事業所 【敷地面積】191,236m <sup>2</sup> ISO14001 認証番号 JCQA-E-0093	0.0	89.3	0.12	—	348	3.9	10	15	—	2	—	兵庫県赤穂市高野846 ビニロン繊維 (セメント・ゴム補強、畳糸、製紙用 バインダーなどの産業資材向け)
	0.0	37	0.001	—	78.3	1.9	0.79	0.8	—	0.02	—	
垂井事業所 【敷地面積】156,224m <sup>2</sup> ISO14001 認証番号 JCQA-E-0323	11.5	180	0.3	—	108.4	50	5	120	42.7	16	5.6	岐阜県不破郡垂井町2210 綿不織布、ガラスクロス
	0.71	82.1	0.004	—	25.5	3.3	1	2.1	3	0.1	0.14	
常盤事業所 【敷地面積】137,551m <sup>2</sup> ISO14001 認証番号 JCQA-E-0221	17.5	130	0.3	80	—	100	2.5	—	—	—	—	岡山県総社市中原88 純綿糸、合成混紡糸と純綿糸、 合成混紡糸の織物
	0.33	78	<0.001	<1	—	<1	<1	—	—	—	—	
(株)ユニオン 【敷地面積】6,886m <sup>2</sup> ISO14001 認証番号 JCQA-E-0835	—	180	0.15	300	—	300	2	150	150	20	20	大阪府枚方市大峰南町10-1 ガラスビーズの製造
	—	18	<0.002	18	—	8	0.5	1.5	—	0.1	—	

※表の数値は 規制値 2009年度測定数値 です。

注1：規制値は法(大気汚染防止法、水質汚濁防止法)、条例、県指導、協定の中で最も厳しい値を示しました。  
注2：事業所敷地内の関係会社の環境負荷分も含みます。  
注3：SOxは硫酸化合物、NOxは窒素化合物、CODは化学的酸素要求量、BODは生物化学的酸素要求量です。  
注4：大気については各事業所にあるそれぞれの設備の内、主要設備の測定値を記載しました(総量は事業所全体の値)。  
注5：水質については各事業所で最も高い値を示した排水口の測定値を記載しました(負荷量は事業所全体の値)。



お問い合わせ先

**ユニチカ株式会社**

〒541-8566 大阪市中央区久太郎町4丁目1番3号

経営管理室IR広報グループ：TEL06-6281-5695

ホームページ：<http://www.unitika.co.jp/>